

創立20周年記念誌



# 波 濤

第40号

放送大学神奈川同窓会

## 放送大学学歌

作詞 那珂太郎

作曲 柴田南雄

(一)

あまたの星々のなかの この地球にあつて  
われらはまなぶ 世界を 自分を  
われら どこから来て どこにゐるのか  
生きるとはまなぶこと まなぶのはたのしみ  
知は光 みどりの未来を展(ひらく)ため  
いつでも どこでも

見えない友と 共に生き 共にまなぶ  
開かれた大学 放送大学

(二)

はるかな永劫のなかの この時代にあつて  
われらは知らう 社会を 自然を  
われら どこから来て どこへ行くのか  
生きるとは知ること 知ることばよろこび  
知は力 よりよい生(いのち)を拓(ひら)くため  
朝(あした)に 夕(ゆうべ)に  
親しい友と 語り合ひ 共にまなぶ  
開かれた大学 放送大学





# 波 濤

## 命名の由来

「波濤」の命名の由来は「波濤」6周年記念特集号に須藤 威夫氏が寄稿されているものを掲載しました。(当時のマークは上記通りでした)

作者：須藤 威夫

「名は体をあらわす」とか。「波濤」を広辞苑でひくと、大波とある。6年ほど前、放送大学神奈川支部で同窓会誌を発行することになった。その命名を一般募集したら、5つほどの名前があがった。「カモメ」、「ゆり」、「ブリッジ」等々であった。どうもすっきりしない。いまいちという役員達の評でなかなかまとまらない。発行期限はせまっている。「何かいい名はないかなあ」、役員5人思案するばかり。「万里の波濤をのりこえて」と小生がつぶやいた。

「そうだ、波濤はどうだろう」と。「あゝいいわね」と美人役員たちの賛成があった。放送大学のシンボルマークのイメージとも合うし、「波濤」が同窓会誌名となった。さざ波のような小さな同窓会活動を波濤で盛り上げよう。そして、波濤は世界の港、横浜とも縁がある。海は世界につらなり、ひらかれている。「波濤」で社会に、そして世界にひらかれた教育を目指そう。というたいそうな願いもこめられている。

引用：1997年7月発行 第2号より『波濤』名称を使用

その後の資料より須藤氏文を抜粋した。

目 次

記念誌発行に寄せて	放送大学学歌・『波濤』命名の由来			1・2
	記念誌発刊に寄せて	神奈川同窓会会長	木村 勝紀	4
	創立 20 周年記念事業について	副会長	浅井 公子	4
	神奈川同窓会創立 20 周年を祝して	神奈川学習センター所長	渡邊 慎介	5
	神奈川同窓会創立 20 周年によせて	放送大学准教授	原田 順子	6
	神奈川同窓会創立 20 周年に寄せて	神奈川学習センター事務長	宮崎 安博	7
	神奈川同窓会創立 20 周年に寄せて	同窓会連合会会長	葛貫 壮四郎	8
	創立 20 周年を祝して	同窓会連合会副会長	小野 鐵雄	8
歴代会長・事務局長寄稿	更なる社会貢献への挑戦	初代会長	別所 敏明	9
	祝同窓会創立 20 周年	二代会長	加藤 あいし	9
	創立 20 周年を祝う	三代会長	稲葉 恒夫	10
	『波濤』40 号記念を祝して	四代会長	押山 勝生	10
	広がる友好の輪	五代会長	藤井 輝	11
	同窓会創立二十周年記念によせて	六代会長	伊東 廣明	11
	創立二十周年に寄せて	七代会長	五十嵐 一成	12
	連帯感と協調性の精神で更なる発展を！	八代会長	笠井 政記	13
	神奈川同窓会設立 20 周年記念に寄せて	平成 18・19 年度事務局長	千葉 良一	13
	同窓会と私	平成 20・21 年度事務局長	志賀 健三	14
目指そう ワンランク・アップ！	平成 22 年度事務局長	吉原 司郎	14	
名誉学生	名誉学生一覧	神奈川学習センター		15
	健康の大切さ		大塚 幸雄	16
	感謝・感激！		平瀬 源	16
	神奈川同窓会創立 20 周年に寄せて		宮下 光	16
	同窓会と私の 20 年		吉田 昭二	16
	放送大学神奈川同窓会創立 20 周年記念に寄せて		中村 光邦	17
会員寄稿	放送番組制作見聞記		石橋 正彦	18
	面接授業『出羽路の芭蕉』を受講して その 2		永井 藤樹	21
	放送大学同窓会のトップランナー		後藤 雄二	22
	医師不足に悩む地方病院		佐乗 慎二	23
	NEW YORK 5 週間 ぶっつけ本番一人旅		大島 キヨ子	24
社会貢献 情報通信	神奈川同窓会とフォスター・プラン活動		星 礼子	25
	波濤ネットの会およびホームページ		岡本・寺村	26
行事	企画行事および今後の予定（錦秋の小田原へ・映画鑑賞会・フォスター・プラン講演会）		渡邊・西山・赤松	29
	思い出スナップ			31
	サークル紹介	神奈川各サークル	各代表者等	34
	フェスタ・ヨコハマ講演会・お抹茶およびピンゴ	神奈川同窓会	木下・大木・志賀	39
資料編	神奈川学習センターの施設整備（環境整備）	神奈川学習センター		41
	同窓会二十年の歩み（年表）および役員一覧			42
	神奈川同窓会の動向	会員名簿・会員数・歴史		51
	編集後記			64



# 波 濤

[http://www.geocities.jp/hatoh\\_net/](http://www.geocities.jp/hatoh_net/)

## 第 40 号 (創立 20 周年記念)

発行 放送大学神奈川同窓会  
編集委員会

責任者 木村 勝紀

発行日 平成 22 年 11 月吉日

会員数 563 名(平成 22 年 10 月 10 日現在)

### 記念誌発刊に寄せて ～継続は力なり～



神奈川同窓会  
会長 木村 勝紀

神奈川同窓会の現会長を務めます木村勝紀でございます。このたび、「波濤」40号の記念誌発刊の時にあたり、凶らずも神奈川同窓会の会長としてご挨拶できることは、誠にもって身に余る光栄でございます。

まずは、平成2年10月の同窓会神奈川支部（現神奈川同窓会）創立から今日まで20年間、神奈川同窓会発展のためにご尽力いただいた歴代会長、役員そして会員のみなさまに深甚なる敬意を表したいと思えます。また、神奈川同窓会を今日まで陰に陽に支えて頂いた、同窓会連合会の皆様、そして神奈川学習センターの歴代センター所長をはじめ、職員の皆様にも、改めて厚くお礼申し上げます。

神奈川同窓会の創立20周年を記念しての『波濤』が40号を迎えるということもまた、まことに意義深いものがございます。年に2回の発行ということを考えますと、神奈川同窓会創立以来、一度も絶やすことなく今日まで営々と続けてきたこととなります。創刊号以来、編集に携わった幾多の諸先輩のご努力が汗と涙の結晶となって綴られてまいりました。会員と会員の絆を結ぶ媒体として貴重な役割を果たしてまいりました。それは神奈川同窓会の継続・発展に寄与し、まさに「継続は力なり」を実践してきたわけでありませう。

創立20周年を期に神奈川同窓会は、更なる発展を期してまいります。広報活動も紙媒体の「波濤」の継続発行とともに、IT時代の環境を生かしつつ、ホームページ、「hatoh-net」の拡充など新分野を拓いてまいります。

また、初めて神奈川同窓会のシンボルマークを製作し、シンボルマークをあしらった同窓会旗の旗の下に、会員間の絆を深めてまいりたいと思えます。「波濤」40号発行に示された「継続は力なり」を心として、神奈川同窓会の発展に微力ながら尽くしてまいります。関係の皆様の変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

### 創立20周年記念事業について



副会長  
浅井 公子

神奈川同窓会は、現会員のみならず広く卒業生・修了生が、会員相互の親睦と協力を図ることを目的としています。今年度は創立20周年を祝して下記の記念事業を展開しております。それぞれの主旨と概略を報告いたします。

1. 『波濤40号』を創立20周年記念誌とします。

神奈川同窓会は設立以来20年の歴史と伝統を育んで参りました。

同窓会の来し方を振り返り、更なる発展への誓いを込めて保存版として、皆様にお届けします。

2. 「シンボル・マーク」を策定すること。

神奈川同窓会の理念が込められたシンボル・マークを会員同士の絆を結ぶ象徴として策定しました。放送大学のロゴを利用してその下に神奈川同窓会の文字を挿入したものです。『波濤 40 号』の裏表紙にも早速使用しました。今後は神奈川同窓会の発信文書には必ず使用します。

3. 「同窓会旗」を制作すること。

シンボル・マークを旗にして、放送大学卒業・修了の誇りを絆に精神性を具象化して旗の作成を決断しました。今後は同窓会の行事に使用します。

4. 「同窓会会員証」を発行する事。

放送大学の卒業生・修了生が神奈川同窓会に所属する榮譽を分かち合うため、「同窓会会員証」を発行する事にしました。

5. 「神奈川学習センター施設利用証」を発行してもらうこと。

神奈川学習センターに所属する事の実利を提供します。神奈川学習センターと神奈川同窓会の円満な連携の象徴として「施設利用証」の発行をする事で双方の合意に達しました。神奈川学習センターの英断に感謝します。

同じ放送大学卒業生・修了生でも同窓会入会者のみに与えられた特権です。

6. 「その他」

平成 22 年度中の各種行事には、全て「創立 20 周年記念」の冠をつける事にしました。



## 特別寄稿

### 神奈川同窓会 創立 20 周年を祝して



神奈川学習センター  
所長 渡邊 慎介

放送大学神奈川同窓会が創立 20 周年を迎え、つくづく思い出す言葉は、「継続は力」です。この言葉はしばしば使われますが、決して抽象的な歴史を言い表すのではなく、具体的な内容を伴って語られなければなりません。

それでは、神奈川同窓会の 20 年にわたる歴史が、一体、どんな力となって現在の神奈川学習センターを支えているのでしょうか。

まず第 1 に、卒業生・在学生による主体的活動が挙げられます。神奈川同窓会も、各サークルも、K-サポートも、卒業生、在学生が、自らの判断のもとに活動を続けている事実です。もちろん、個々の場面では、学習センターとの協議を継続しています。私の短い在任期間に、卒業生や学生の皆さんに、ああして下さい、こうして下さいと指示をした記憶はありません。皆さんの希望に対して、こうしたら、と助言を申し述べた経験はあります。そうした助言だけで、すべての活動が順調に進むのは、卒業生・在学生の主体的な行動があるからにほかなりません。

第 2 には、同窓会をはじめとする卒業生・在学生の活動に、自分たちのためだけでなく、すべての卒業生・在学生のため、さらには神奈川学習センターや放送大学のためという視点が、明確であることです。別の言葉で言えば、自分が楽しんでいながら、まわりの人も楽しませてくれるサービス精神が、知らず知らずのうちに育まれているのでしょうか。あるいは、他人のために働きながら、自分自身も楽しむ術を身につけている、といっても良いかもしれません。このような姿勢は、一朝一夕に育ちません。まさに、長い歴史があってこそその姿勢なのでしょう。



継続の力は、まだまだあるでしょう。それを数え上げるよりも、これからの歴史について語ることにします。神奈川同窓会の会員も、在学生の方々も、神奈川学習センターを放送大学の中で一番の学習センターにしようと意気込んでいます。それは、私たち教職員も変わりません。

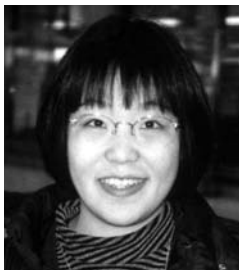
一番は、数と質の二つ面で一番があります。もっとも両者は、密接に関連しあいますから、分かちがたく関係しています。そこで、ひとつの視点を皆さんに提示したいと思います。それは、困難を乗り越えるという点で、日本一の学習センターになることです。

具体的に申し上げます。入学した学生が無事に目的を達成する、これがもっとも大切なことです。卒業を目指す学生が、無事に卒業する。卒業研究という困難に立ち向かう。希望する資格を取得する。学生ひとり一人が困難を克服する点で日本一である、そういう学習センターを目指すのです。そのためのシステム構築に、学習センターとしても全力を注ぎます。

目的達成のため、しかめ面をする必要はありません。神奈川学習センターの学生なら、楽しみに困難に立ち向かうことができるはずです。

同窓会創立 20 周年のお祝いは、この指針の提示です。おめでとうございます、とお祝いを申し上げつつ、切にご協力をお願い致します。

## 神奈川同窓会 創立 20 周年によせて



放送大学准教授  
原田 順子

神奈川同窓会創立 20 周年という記念すべき「波濤」40 号に寄稿させていただき光栄です。20 年という長きにわたり、同窓会を支えて来られた方々すべてに感謝します。大学の草創期、生涯学習という言葉がまだ目新しい時期に、それぞれの想いを胸に卒業した方々の志が、今に受

け継がれてきたと思います。

現在、同窓会の活動は多彩で、学習センターのみならず大学全体が同窓会に負うところ大といえます。同窓会会員の後輩に対する温かい心が、大学を支えてくださってきました。とりわけ、学習センターにおける学位記授与式の日に開催して下さるパーティは、学習センター所属教員の私にとって一年の節目であり、生涯学習の意義を再認識する場になっています。どんな想いを抱いて入学されたか、在学中の苦難、そして卒業の喜びを聴くと、いつも身の引き締まる思いがいたします。

今後、より多くの卒業生が同窓会に積極的に参加して下さることを期待しております。同時に、種々の事情で積極的に活動できない人たちのために、ぜひ同窓会の灯をともし続けて下さることを願っています。というのは、そういう方々のなかにも、同窓会の何らかの発信に励まされたり、いつか参加しようとか考えたりすることがあると思うからです。生活のなかの繁閑、好不調などは、誰にもあることです。しかし、卒業を成し遂げたという晴々しく確かな事実につながる同窓会という存在は、どんな時も各卒業生の自尊心の源になっているはずです。

実は、私が放送大学に奉職したのは、皆様の仲間の一言が関係しています。その人は、私のアルバイト先の社員の方でした。私と同世代の女性で放送大学の第 1 期生です。なかなか教員の職が得られないので、違う道に進もうかと考えていたときに食事をご一緒しました。すると、公募で教師になったご友人がいるから「世の中には本当の公募もあるはず」とおっしゃるので。そこで、これで駄目なら進路変更を考えようとして最後の 1 通のつもりで応募したのが放送大学でした。偶然、彼女の出身大学でもあり、不思議なご縁を感じます。

世の中の変化は速く、本学の学生や同窓会も時代とともに変わっていくことでしょう。しかし、これからも同窓会は、放送大生団結の象徴であり、卒業生の心のよりどころであり続けてほしいと願っております。

## 神奈川同窓会創立 20 周年に寄せて ～神奈川同窓会にエール～



神奈川学習センター  
事務長 宮崎 安博

放送大学同窓会の歴史を紐解くと、1990（平成2）年3月に同窓会連合会設立準備委員会が発足し、初代会長に藤田茂光氏（神奈川）が選出された。さらに1992（平成4）年には別所敏明氏（神奈川）が第3代会長として選出され、四期間重責を務めた。

藤田・別所の両氏は1998（平成10）年に移行した同窓会連合会の組織化に導いた功績は多大なものがある。

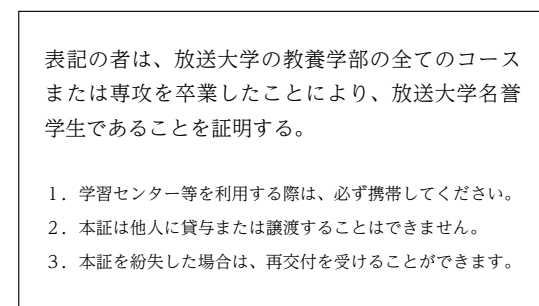
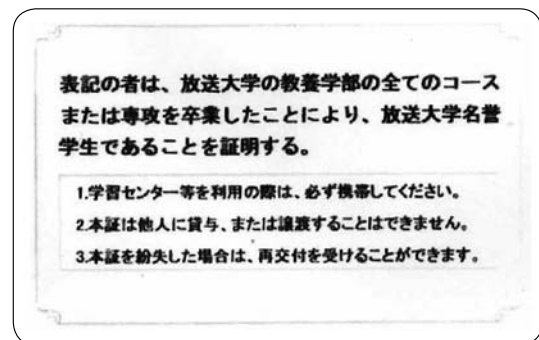
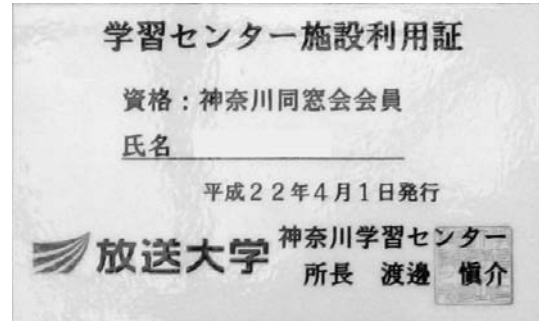
これまでの経緯を見ても同窓会連合会の全国化は、神奈川同窓会が道筋を付けたと言っても過言ではない。

また、2008（平成20）年には、笠井政記氏（神奈川）が同窓会連合会第11代会長に就任し、2009（平成21）年3月NHKホールにおいて挙行された学位記授与式後の同窓会連合会主催「卒業祝賀・謝恩パーティー」を高輪プリンスホテルにおいて開催し、成功裏に収めたことなど、神奈川同窓会の活躍は輝かしいものがあります。

神奈川同窓会は、「神奈川サークル協議会・K-サポート・学習センター」が連携して諸事業を推進しうる組織を有することは他の同窓会にない大きな特徴と言えるのではないのでしょうか。神奈川同窓会第9代会長として2010（平成22）年4月に就任した木村勝紀氏の下で同年6月に発行した神奈川同窓会誌「波濤第39号」によると、平成22年度の活動概要として「帰属意識の持てる環境整備」を謳っている。具体的には、①同窓会シンボルマーク及び同窓会旗の作成 ②学習センターの施設が利用できる同窓会会員証の発行などの整備を挙げている。

放送大学の特徴は、リピーターの存在である。現役学生の中に同窓会員が多数存在する。卒業生が再度神奈川学習センターで学びたい環境作りを目指し、学習センターとしても可能な限り御支援をさせていただきたいと思っております。

す。  
最後に、全国の同窓会の最先端に行く神奈川同窓会の益々のご発展をお祈りいたします。





## 神奈川同窓会創立 20 周年に寄せて



同窓会連合会  
会長 葛貫 壮四郎

貴同窓会の創立 20 周年、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

創立 20 周年になるまでには、諸先輩のご苦勞、並びに、学習センターのご指導とご援助もあったかと思えます。人間で言えば、成人式です。今後のご活躍を期待します。さらに、記念号『波濤』40 号を発行とのことで、配布を楽しみにしております。同窓会連合会でも、2009 年の 11 月に設立 20 周年記念行事として、放送大学石学長はじめ全国の同窓会の会長さんにお集りいただき、パネルディスカッション、全国同窓会情報交換会、記念祝賀会等を盛大に実施しました。このように節目の年に記念事業を行うことは、過去を見つめて、今後のあり方を議論するには、よい機会かと存じます。

同窓会連合会では、各学習センターおよびサテライトオフィスに同窓会が設立（現在、45 同窓会）され、もう一步で全国化が達成できるところまで来ました。これもひとえに諸先輩の努力の賜物と思っています。

全国化になりますと、課題も多くなります。そこで、今年度の会長の基本方針として、下記、4 つを掲げました。

- 1) 放送大学との連携及び  
隣接同窓会との交流・連携
- 2) 情報共有と情報リテラシー向上の推進
- 3) 同窓会設立支援
- 4) 財政基盤・組織基盤の方向性模索

これらについて、特別委員会を設置して推進していくことになりました。貴同窓会の木村会長には、「情報共有と情報リテラシー向上の推進」の特別委員長として活動していただいております。他の特別委員会についても、順次具体化していきたいと思っておりますので、貴同窓会のお力をいただきたくお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴同窓会の今後の益々のご発展を祈念します。

## 創立 20 周年を祝して



同窓会連合会  
副会長 小野 鐵雄

神奈川同窓会創立 20 周年まことにとおめでとうございます。この記念の広報誌『波濤』に寄稿することになりました、今年 5 月の創立 20 周年記念総会で、私の故郷の文化遺産である「男鹿のなまはげ」について講演を行う機会を得たこと厚くお礼を申し上げます。

私が放送大学同窓会連合会に関与したのは、平成 16 年度千葉同窓会長の伊藤睦氏が連合会長に推挙され、同年の事務局長を担当したのが最初です。会長を補佐する事務局長の役職は非常に多忙であつという間に 1 年が過ぎ去った気がします。この 1 年間で、連合会の運営、連合会役員との協議、各同窓会会員との交流等を通じて円滑な同窓会の組織運営を学ばせて頂いたことは非常に有意義なことでありました。

私は 50 歳で放送大学に入学し、56 歳で学部を卒業しました。1 年間卒業論文を記述した経験は大きな財産になり、2 年後に大学院が開設されるのを待って、大学院の一期生として入学し、修士論文は「労働災害防止対策とその成果」をテーマに書き上げ、還暦の年に修了することができました。放送大学本部図書館は週末の私の学習室として利用させて頂いた思い出の場所です。

放送大学千葉同窓会長を拝命して 3 年目に入り、今年度は同窓会連合会の副会長を仰せつかっております。葛貫同窓会連合会会長が掲げる平成 22 年度の方針を着実に実行できるよう支えるのが副会長の役割ですが、神奈川同窓会の木村会長をはじめ各同窓会の支援を得なければ何もできませんので更なるご協力をお願い申し上げます。

終わりに、神奈川同窓会の益々のご発展と会員各位のご健勝をご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 歴代会長寄稿

### 更なる社会貢献への挑戦



初代会長  
別所 敏明

同窓会創立 20 周年、おめでとうございます。早いもので、開かれた生涯学習の場としての「放送大学」第一期卒業生が集い、同窓会を誕生させたのは、ほんの先日のように感じられます。また、同時にこの間の会員及び役員のためめぬ努力に対して、衷心より敬意を表したいと存じます。

顧みれば、同窓会活動の目的の一つとして社会貢献を掲げたのは、幅広い層からなる放送大学同窓生が持つ特殊な背景を取り込んだ活動を模索したことによります。それは、社会を卒業され円熟味溢れた人、社会人として／家庭生活者として現役で高い専門性レベルを有されている人、これから人生に乗り出そうとしている人等であり、様々な分野において数多な能力を秘められている人々から成ることであるからです。

また、私たちが生きてゆくに当たって、外への人々との交誼抜きでは考えられないことによる活動の選択として重要な要素と考えたのです。特に、今日まで会員及び役員の方々が育んできている「フォスター・プラン」活動は、わが国における国際化への道に符合さすものであったのです。私は、同窓会活動の基本は「ストレッチ活動」であろうかと思えます。決して無理をせず、身の丈の環境に合った努力・行動によることが継続するための重要な視点であると考えています。

しかも、その成果を直ちに最大限要求するものではないのです。長年の結果として、確実に成果に結び付いていることの「目標達成感」が会員に伝わるのが、共感を得ることになると

信じます。多くの同窓生にとって、参加しているという共通の認識を自覚し共有できていることが、継続の重大な要素であると考えます。最後に放送大学同窓会の特徴を活かした、更なる社会への貢献を祈念して、20 周年の祝辞に代えさせていただきます。

### “祝同窓会創立 20 周年”



二代会長  
加藤 あいし

放送大学神奈川同窓会が創立 20 周年の節目を迎えられたことに心からお祝い申し上げます。これも偏にこれまで同窓会を支えてきた多くの役員の方々のなみなみならぬご努力とご理解とご支援の賜物だと存じております。

私が会長を務めた平成 4 年の同窓会は、活動基盤が整い始めたという背景の中で、神奈川の特徴をいかしながら各種行事への参加や情報交換などを重点的に扱いました。当時の会員数は 226 名でしたが、会報「波濤」に対するご意見やご提案を頂いて、会の活動内容や情報交換について、役員会で熱心に論じあったという楽しい思い出があります。

また、神奈川同窓会が取り組んでいるフォスター・プラン活動は、平成 4 年 3 月に中米グアテマラのピラールちゃん（女子・当時 14 歳）を最初の対象者として、支援を開始したものです。この国際貢献については、会員皆様のご理解を基に今なお続けられていることに、胸あつくなる思いをしています。このような活動や思いを通じて、私たちの願いである世界平和の推進と地球環境の保全に向けた活動がより活発化するよう祈っています。

放送大学の生涯学習は学問や知識を身につけて、自己の研鑽や向上に役立てるだけでなく、サークル活動を通じて他では見られない仲間作りができるという貴重な特色があります。幅広い年齢層や多彩な経験をもつ学生たちで構成されている大学であるため、勉学は勿論のこと、

特定の目的や活動、趣味などを介して、仲間との素晴らしい繋がりを持つことができるからです。このようにして得た友は生涯の宝となる可能性を秘めていますので、同窓会のサークル活動には、ぜひ積極的に参加なさるようにお勧めいたします。

なお、現在の同窓会会員数は553名であり、最近では卒業生の数が減少傾向にあるということですが、20周年というこの節目を機に、放送大学の更なる発展を願い、併せて、同窓会活動の充実や会員相互間における親睦の深化を祈念いたしております。

## 創立 20 周年を祝う



三代会長  
稲葉 恒夫

放送大学神奈川同窓会創立 20 周年を迎え、並な言葉ですが誠に慶ばしくこの会の運営に努力し参画なされた各位に、お礼とお祝いを申し上げます。

「同窓会神奈川支部を作りたいので説明会を開きます」との呼び掛けに応じて集まった人達が設立準備委員となり、平成2年10月20日、学習センターに隣接する「国際交流会館」の講堂で設立総会を開催し「放送大学神奈川学習センター支部」が発足、早や20年が経過した。

この記念誌では、各執筆者が20年を振り返って「会員相互の親睦」「生涯学習の実践」「社会への貢献」などその達成度が語られよう。しかしより大切なものは過去ではなく未来である。放送大学同窓会をどのように発展させていくべきかを、この節目の折冷静に考えるべきである。そのような意味から未来のあり方について考えてみたい。

放送大学ではその名の通り、主に電波放送に依っての勉学である。その特殊性から対人関係構築が大変難しい。学生間であっても、せつかくの同窓会に入会しても疎遠になりがちである。そこで、同窓会の発想を根本的に転換しよう。

学生時代から良好な人間関係を保つための出

会いを求めるべきだ。同窓会自身が学生集団の中に飛び込んで共に行動したらよい。同窓会員であって学生でもあるこのような人達も大勢いる。卒業後でも、学生のサークル活動で活躍している方もいる。談話室に展示した「フォスター・プラン」活動報告を見て多額な寄付をした在校生も、「フォスター・プラン」活動に参画したいからと、同窓会に入会した人もいる。

「広辞苑」に依ると、同窓会とは「同じ学校の出身者が集まった組織」とある。卒業生以外の人々にも参画してもらう為には「同窓会」の名を変更しなければならない。名称を「波濤クラブ」とでもし、門戸を大きく開放して、教官、職員、卒業生等、誰でも参画出来る倶楽部へと拡大することも、ことの是非善悪は別として一つの方法ではないかと考える。最後に、未来に向かって力強く進まれる事を心から期待してお祝いの言葉と致します。

## 『波濤』四十号記念を祝して



四代会長  
押山 勝生

この度の「波濤」四十号記念誠にお目出度うございます。二十年の長きに亘り、それぞれの年度で御苦勞、御尽力されてきた編集者の方々に心から敬意を表したいと思います。又、読者として「波濤」を支えていただいた同窓生の皆様にも感謝したいと思います。私事ですが、思い返しますと、高校の現役の時に大学受験に失敗し、二浪までして挑戦しましたがやはりだめでした。失意の内に会社勤めを始めましたが、ずっと心の空白は残ったままでした。

そんなある日、買い物帰りの電車の中で放送大学の学生募集の広告が目に入ったのです。これだ!と思いました。何よりも入学試験がなかったのが助かりました。入試に関してはひどいトラウマを負ってましたから。入学して最初の単位認定試験に向けて視聴覚室で勉強していた時、受付の女性に言われた言葉が今でも忘れ

ません。「あなた最近目付が変わったわね」。

大学をどこか甘く見ていたのかもしれない。彼女の言葉でやっと本物の大学生になれた気がしました。お陰様で四年で卒業できました。今から十六年前の五十才の時です。その後、大学との関係を絶ち難く同窓会のお手伝いをいただくようになり、名誉ある会長職までおおせつかりました。会長の時にどれほど「波濤」にたいして貢献できたかは、はなはだ心元ありません。これは最近頃に記憶力が低下してきたのとは全く関係有りません。至らぬ点が有りましたら、いかなる御批判も喜んで受けさせていただきます。

「波濤」は同窓生にとっては心の拠り所だと思います。編集される方にとっては大変な御苦労だと思いますが、これからもずっと編集し続けてほしいものです。最後になりましたが、放送大学神奈川同窓会及び「波濤」のこれからの増々の発展を祈念しまして、私の拙い祝辞とさせていただきます。

## 広がる友好の輪



五代会長  
藤井 輝

私は10周年記念誌に「会員の交流拡大を模索して」と題して投稿しました。あれから10年、神奈川同窓会は独自の諸々の行事や、「フェスタ・ヨコハマ」などでのサークル活動にも参加して、会員の交流は順調に伸びてきました。とても喜ばしいことで、役員をはじめ関係された方々に敬意を賞します。この交流拡大は、内には神奈川学習センターや神奈川サークル協議会の大きなバックアップがあり、外には同窓会連合会や他同窓会との交流も大きな要因になっています。12年前に発足した同窓会連合会は、各地の同窓会会長を理事として構成された組織で、同窓会の全国化が進む中、大学本部との窓口となり、情報共有の場として発展してきました。神奈川同窓会はこれに同期し、幅広い交流を展開しています。

振り返れば、私はこの連合会で10年に亘り監事を務め、広く多くの人たちと接することができたことが一つの財産となりました。また、これが神奈川同窓会に多少ともお役に立てたことを嬉しく思います。神奈川同窓会の活動状況と経歴は、会報「波濤」で紹介しているホームページで見ることができますし、インターネットでの交流の場「hatoh-net」もますます活発になってきました。私はこの「hatoh-net」に時々エッセイを送信しています。どなたでも参加できますので、覗いてみたり寄稿したり一緒に楽しみませんか。今後とも会員の皆さんが、楽しく交流されることを望んでいます。

## 同窓会創立二十周年記念に寄せて



六代会長  
伊東 廣明

同窓会創立二十周年おめでとうございます。これまで同窓会運営を支えて頂いている役員の皆様に、厚くお礼を申し上げます。

創立十周年記念誌発刊に携わってから、既に十年が過ぎました。この間、世の中の変化、流れの激しい十年であったように思われます。放送大学は、当時地元の方にあまり知られていないように思われました。そこで、同窓会の事業の一環として、公開講座を当時の神代所長のご協力で開催しました。この時、近隣の商店主、町内会の役員を訪ねて、講座参加を呼びかけた楽しい思い出があります。

また、当時は、同窓会と学生サークルとの交流の機会もなかったので、フェスタ・ヨコハマに参加してもらいました。これが初めて、大学と学生と同窓会員と一緒に参加したイベントであったかと思えます。その後は、役員の皆様の努力で、更に充実した運営がされていることは、大変よろこばしいことです。

放送大学の特色の一つは、あらゆる年代の人、社会的経験の豊富の方々、一緒に学ぶことが出来ることであると思えます。私自身卒業が難

しい環境で悩んだ時に、若い仲間励まされ、ヤット卒業に手が届きました。その後の同窓会に於ける経験、出逢い等を考える時、大切な原点であったと思います。

現在、青少年の剣道指導や地域団体のスポーツ・文化クラブの運営等に携わっています。何か世の中のお役に立てば良いと思っています。まだまだ学びたい事、学ばなければならないことが沢山あります。終生研鑽と修行と心得て頑張りたいと思います。

同窓会は、親睦を計りながら、学ぶ楽しさを味わえる情報発信基地であり、生涯学習の拠点であり続けて頂きたいと思います。役員の皆様のご努力に感謝しますと共に更なる発展をご祈念申し上げます。

## 創立二十周年に寄せて



七代会長  
五十嵐 一成

神奈川同窓会の二十周年は、創立から現在に至る発展に関わりをもつ、すべての方にとっての慶事とお喜び申し上げます。

私は同窓会創立からの六年間を事務局長として務めさせて頂きました。同窓会役員のお話しを頂いたおりは、若輩である私としては、その任に就くことへのためらいもありましたが、それまで大学に育ててもらったという恩義があり、しかも放送大学の発展を強く願っておりましたので参加させて頂くことと致しました。

当時を振り返りますと、同窓会を軌道に乗せていくという大きな潮流の中、無我夢中で役員の方々についていっただけで精一杯だったことを思い出します。気がつきますと役員任期\*である三期六年をあっという間に過ぎ満期退任をしておりました。退任後も何かと同窓会にはお世話になり(家族一同) 過ごして参りましたが、七代会長を拝命することで、また役員としての大役をお引き受けすることとなりました。その際の経緯につきましては紙面の関係もあり本

稿では割愛させて頂きますが、若輩の私がおはたして会長という大役を務められるのか大変悩んだ時期でもあります。

しかし、当時の役員の方や同窓会に関係する方々のエネルギーに支えられたことが、私にとっての最大の助けとなったことは確かな事実であり深く感謝しております。このような経験をもとに神奈川同窓会という組織を概観しますと、他大学や他組織にはない次のような特色を有していることがみえてきます。老若男女を問わない、ヨコのつながりと年代を超えたタテの人間関係の両面において親交がある。利害関係を排し、職業、信条などの違いに捉われることのない集団である。同窓生の多くの方が卒業後も生涯学習を継続している。このような特色を有する集団は他に類をみない存在であるとともに、社会からの負託にも応えていく力を十分に備えている集団であると考えております。

今後の同窓会においても、同窓会創立当初からの目的である「会員相互の親睦」、「生涯学習の実践」、「社会への貢献」の三つの柱を掲げた活動を継続して頂くとともに、特に「社会への貢献」については、新たな社会貢献事業を展開していくことが同窓会の責務の一つであると感じております。学んだことを社会へ還元すること、更に次の世代へ継承していくことで、放送大学および同窓会が益々発展していくことを祈念して二十周年のご挨拶とさせて頂きます。

\* 当時の任期は一期二年で三期六年迄と定められておりました。





## 連帯感と協調性の精神で 更なる発展を！



八代会長  
笠井 政記

創立 20 周年おめでとうございます。  
私は、2000 年 10 月の卒業と同時に神奈川同窓会へ入会いたしました。そして 4 年前、3 年後の放送大学同窓会連合会長に就任する事を目的に会長に就任いたしました。予定通り、平成 20 年度は、第 11 代連合会長として就任し、会の業務に携わりました。平成 21 年 3 月 27 日には、学位授与式の後を次いで高輪プリンスホテル「飛天の間」において同窓会主催最後の卒業祝賀・謝恩パーティを開催し、出席者の方から喜ばれ、大成功のうちに納めることが出来ました。パーティの出席者中には、新潟より娘夫婦、孫 3 人計 6 人で出席しました。遠路はるばる来たかひがありました。ありがとうございました。楽しい会でしたよ！と感謝の言葉をお聞きし、学長より「これが放送大学の卒業式だ」とのお言葉をいただき、1 年間の労が労われた気がいたしました。

神奈川同窓会長としての 4 年間、何を行ったか考えますに、同窓会の部室の確保、「ホームページ」・「hato-net」の作成、そして学校側との親睦を密にしたことが思い浮かびます。私の会長という活動を成功裏に終えることが出来ましたのも、先輩諸氏の温かいご支援と激励そして執行役員、会員の皆様のご協力のお陰と感謝いたしております。この連帯感と協調性の精神こそが神奈川同窓会の 20 周年を迎えることができた原動力ではないかと思えます。

神奈川同窓会の組織は万全です。「ひとは石垣・ひとは城」という言葉があります。この石垣が作られましたのは、徳川家康が征夷大將軍に任じられましてから間もなくと言われますから、今から三百数十年前のことです。この石垣は、長い間の風雪に耐え、今でもびくともしないで城壁の役目を立派に果たしています。それは大きな石、中くらいの石、小さい石、形の変った多くの種類に石が組み合わされ、少しの隙間もないほど理想的に築造されています。

石垣も大きな石だけでは作れませんし、いわんや小さな石だけでも不可能です。重量、形状の変った石を使っておればこそ、強硬な石垣になったわけで、大、中、小の石はそれぞれ相互に補完しあい、補充しあっています。よく調和が取れているから数百年にわたる風雪、地震にも耐えられたのです。神奈川同窓会がこれまで存続し、発展が遂げられたのも、先輩諸氏、役員、そして、会員の連帯感と協調の精神があったればこそ、実現したと思えます。

今後も連帯感と協調の精神を重んじて、神奈川同窓会が更なるご発展することを祈念いたしております。また、私自身寄与していきたいと思っております。

## 事務局長寄稿

### 神奈川同窓会 設立 20 周年記念に寄せて

平成 18・19 年度  
事務局長 千葉 良一

今年の夏神奈川県内は猛暑日の連続でどなたも体力消耗が著しく秋の彼岸が待ち遠しい今日この頃です。神奈川同窓会会員の皆様にはお元気で日々の生活、それぞれに活動されて居られることとお慶び申し上げます。今年 6 月の総会で退任された笠井前会長には同窓会連合会の会長として一連の業務遂行が大成功に終了されたとのこと誠におめでとうございます。またこの行事に協力された神奈川同窓会理事の方々大変お疲れ様でした。

今年度就任された木村新会長は今年度の同窓会運営方針として「歴史と伝統と栄誉を誇る同窓会」「大いなる誇りを絆に結ぶ同窓会」と同窓会設立 20 周年記念にふさわしいキャッチフ



レーズと感じます。新鮮で活動力に満ちた活動方針に期待します。

さて同窓会設立 20 周年記念誌発行計画に際し近年同窓会事務局長経験者は一言コメントせよとの会の要望ですので私なりに事務局長就任期間平成 17 年～20 年の 3 カ年について役割の達成と実務について思い出の一頁を述べてみます。事務局長の仕事は理事会が決定した活動計画に従い定例理事会開催の準備年間 10 回程度・通常総会・臨時総会の開催年 1～2 回・会報波濤の発行 2 回・フェスタ・ヨコハマ準備打合せ参加 7～8 回・9 月卒業生記念祝賀パーティ・3 月全国卒業生学位授与式及び卒業記念祝賀パーティ関係参加・フォスタープラン関係等、計画された行事をスムーズに遂行するにはまず緻密な計画、欠落のない準備を実施する。大学又は外部に依頼する要件については事前に協議・確認を怠りなく行う。

事務局の仕事が成功するか否かは仕事発生に際し綿密な準備、実施計画と外部依頼要件の進捗確認を重点に行うことでした。その他同窓会・現金預金管理、会員・年会費入金管理等であり以上難しいことは特に無く、理事の皆様の協力により事故なく 3 年間の事務局長の任期を終了致しました。理事各位のご協力に感謝致します。

## 同窓会と私



平成20・21年度  
事務局長 志賀 健三

神奈川同窓会創立 20 周年おめでとうございます。私は平成 17 年の春卒業後すぐに神奈川同窓会へ入会致しました。同時期から役員としてお世話になり今日に至っています。従って私のなかの同窓会とは同窓会役員会の活動を通して感じたことにはかなりません。

そこで過去 1～2 年で印象に残った出来事を二つお話し致します。去る 6 月の同窓会行事(鎌倉ハイキング)に参加。終了後の懇親会で〇氏

と隣り合わせになり、初対面でしたが専攻科目に関連する話題などで盛り上がりました。放送大学在学時は仕事の合間の孤独な勉強でしたので、学生同士の議論の機会ほとんど有りませんでしたから、級友と久しぶりに出会ったような気分になりました。

また昨年の「波濤」発送共同作業でのこと、一般の会員や新入会員の方々、それぞれに対応して数種の書類を同封します。関係のない書類が届いたりすると失礼になりますので、当日は用意万端で臨んだつもりでしたが、総会出欠用のハガキが 100 枚近く足りなくなり慌ててしまいました。私の段取りミスで、入れてはいけない宛名(未会員)の封筒に入ってしまったのです。幸い封をしていない状態でしたので見つかりほっとしました。…などなど悲喜こもごも。とかく怠惰に流れがちな生活への刺激を同窓会の活動からもらっています。

今後も同窓会とは程よい距離を保ちながら、かかわって参りたいと思います。

## 目指そう ワンランク・アップ!

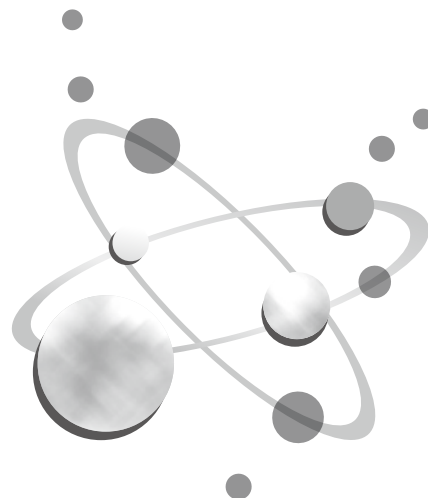


平成22年度  
事務局長 吉原 司郎

神奈川同窓会創立 20 周年を迎えた真に記念すべき年に、偶々、役員改選により事務局長と云う大任を仰せつかりました。幸い前任の志賀さんより懇切丁寧な引き継ぎを受けましたので微力ながら尽力して参る所存であります。宜しくお引き回しのほどお願い申し上げます。

さて、本年度は「歴史と伝統と栄誉を誇る同窓会」「大いなる誇りを絆に結ぶ同窓会」を活動方針に定めております。具体的には放送大学関係周辺組織との連携強化を図り、情報交換等による相互啓発から本会の体質強化を目指すとともに会員相互においては、「hatoh-net」(Eメール)による交信の活性化やホームページによる情報交換により、会員相互の絆を深化させ相互

啓発と親睦を図るべく活動しております。事務局としましては、「波濤」編集やホームページのコンテンツの収集等それぞれの活躍されている皆さんの隘路を拾いお役に立てばと思っております。同窓会の事務局と云う仕事は経験も浅く適切なコメントは差し控えたいと思っておりますが、どうやらかなり泥臭い地道な仕事であります。総勢563名に及ぶ所帯でありますので、意を尽くして会員の皆様のご意見や希望をお伺いし役員会に諮っていきたくと思っております。わが同窓会の発展のため、会員各位におかれましてはどうぞ忌憚のないご意見をお寄せ頂きたいと思っております。ご意見、ご希望をお待ちしております。



## 名誉学生（グランドスラム達成者）一覧

放送大学では教養学部のすべてのコース  
または専攻を卒業した方を  
グランドスラムといいます

名誉学生（グランドスラム達成者）一覧

神奈川学習センター

氏名	卒業（グランドスラム達成）	表彰
浅野 佐保子	1998(H10)年度 第2学期	2008(H20)年度 第1学期
信夫 実	2002(H14)年度 第2学期	2008(H20)年度 第1学期
大塚 幸雄	2004(H16)年度 第2学期	2008(H20)年度 第1学期
大下 綾子	2004(H16)年度 第2学期	2008(H20)年度 第1学期
*林 健三	2005(H17)年度 第1学期	2008(H20)年度 第1学期
平瀬 源	2005(H17)年度 第2学期	2008(H20)年度 第1学期
大川 十三男	2006(H18)年度 第2学期	2008(H20)年度 第1学期
宮下 光	2008(H20)年度 第1学期	2008(H20)年度 第2学期
吉田 昭二	2008(H20)年度 第2学期	2008(H20)年度 第2学期
中村 光邦	2009(H21)年度 第2学期	2009(H21)年度 第2学期

### 備考

1. 平成20年度第1学期の「学位記授与式」から、教養学部の6専攻すべてを修了された方を対し学生表彰を実施。
2. 教養学部のすべてのコース（又は専攻）を卒業した学生に対して、長年にわたり高い学習意欲を持ち続け、快挙を達成したことを顕彰するため、「放送大学名誉学生」制度を創設（平成22年4月13日）

\*林 健三様はご逝去されました。

名誉学生(グランドスラム)のリストは、神奈川学習センターより提供を受けたものです。

## 名誉学生の声

### 健康の大切さ

大塚 幸雄

20 周年おめでとうございます。関係者の皆様  
に感謝すると共に、私も名誉学生証をもらい喜  
んでいます。

ところが今年になって自分の健康について思  
いがけないことが発生し、人生いろいろ、男も  
いろいろだと思ひ知りました。

放送大学の皆様も先生方の御指導のもと身体  
に気をつけて、自分自身の好きなことをテーマ  
に学ぶことに喜びと楽しみをみつけてください。

### 感謝・感激！

平瀬 源

この度は神奈川同窓会創立 20 周年の件です  
が、誠におめでとうございます。私は同窓会の  
皆様にはとてもお世話になっております。皆様  
方のお陰様で放送大学の学生生活はこの上もな  
く楽しく過ごしてこられました。並々ならぬ感  
謝感激いたしております。今後とも更なる発展  
及びご活躍を期待してやみません。今後ともよ  
ろしく願ひいたします。

②その修得の成果を刈取る時期が来たとの警鐘  
をいただきました。②は単に資格取得や、論文  
にまとめる等に終始せず、本来の生涯学習・教  
育上の意味を見出すのが肝心。それは如何に生  
き甲斐を見つけ、その道筋をどう付けるか。此  
処では小市民的に、極めて個人的な環境条件を  
基礎にし、とは言え社会との係り合いや歴史的  
条件も含めるのは勿論、今ここにある自分を前  
提に考えます。古希を迎えた男が一人居て、さ  
てどう生きて行こうか、と言う事です。「生きて  
いるだけでも儲けもの」とはよく言ったもので  
、先ずは健康第一。毎年健康診断、胃腸・肝胆  
膵・前立腺・食道の精密ガン検診。医食同源故  
に健康食。塩分油控え目、野菜どっさり、果物  
たっぷり、蛋白ミネラル。食って寝るだけじゃ  
勿体ない。生き生きと張りのある毎日。自分を  
自分で発奮させる「自己発振エンジン」を仕組  
むのが必要十分条件。

小生はそれに「旅」を当てています。小中学  
生のころから自転車で近在の名所巡りしてきた  
し、学生の頃は夏休みを全て無銭旅行に当てた  
体験。現役の頃は、五街道を完全踏破。更に奥  
の細道、源氏物語・平家物語のゆかりの地巡り。  
最近海外旅行、世界の美術館巡りに発展。NH  
K 広島百才万歳に出演しようと意欲十分。最  
後に、グランドスラム取得を省みますと、結論：  
生涯学習や健康関連に限らず全科目が何らかの  
形で人生に応用できるから楽しい。百歳万歳を  
しよう。22.09.08

### 同窓会と私の 20 年

#### 神奈川同窓会創立 20 周年に寄せて



宮下 光

創立 20 周年お祝い申し上げます。グランドス  
ラム達成者としての祝辞を述べるに当たり  
①放送大学開校以来 25 年に渡る永い間、関係者  
に大変お世話になり感謝します。



吉田 昭二

放送大学神奈川同窓会の創立 20 周年を心よ  
りお慶び申し上げます。

奇しくも私の放送大学 20 年と同窓会の 20  
年は略同時期で同窓会創立の前年に入学し人間  
の探究、社会と経済、自然の理解、産業と技術、  
発達と教育、生活と福祉の順に卒業し 20 周年

直前（平成 21 年）グランドスラムを達成したので感慨も又一入であります。

所謂旧制の 6・5・3・3 制卒業までの 24 年に続く設計技術者としての 35 年、定年退職直後の空白 3 年、放送大学の 21 年を加算して 83 歳になります。同窓会には第 1 回の卒業式にて入会しました。

20 年の記録の詳細は波濤 38 号に投稿した「放送大学 20 年の軌跡」に詳しく述べましたが延べ 241 科目の認定試験に臨みほぼ 6 割の合格で合計 375 単位取得しました。又平成 13 年秋から 20 年の春までの 7 年間に胃癌、大腸癌、心不全及び糖尿病で入院手術が 4 回もあり病院の認識用の手錠を着けて面接授業に出席した事もあったが結局 12 年で卒業できるところを 18 年掛かりました。

私は工業学校卒ですが学校では設計製図と金属加工の基本として定規、烏口、計算尺の使い方と鑿、鑽及びきさげの基本動作を実習したので「雀百まで踊り忘れず」で 83 歳の現在でも日曜大工おたくです。

又、数学に興味を持っており中等学校時代には天文学者になろうかと思ったほどで主に随筆的な解説書で勉強していますが中々理解できず負けるものかこれが生涯学習だと自らを励ましています。

文庫本も含めて約 50 冊の内 5 冊を紹介して近況報告を終わります。

書名	著者および訳者
虚数の情緒	著者 吉田武
自然界における左と右	著者 マーティン・ガードナー 訳 坪井忠二、藤井昭彦、小島弘
たまたま	著者 レナード・ムロディナウ 訳 田中三彦
100 年の難問は何故解けたのか	著者 春日真人
「無限」に魅入られた天才数学者達	著者 ロバート・D・アクセル 訳 青木薫

## 放送大学神奈川同窓会 創立 20 周年記念に寄せて



中村 光邦

放送大学神奈川同窓会創立 20 周年を迎え、おめでとうございます。同窓会総会やフェスタ・ヨコハマはもとより、各種同好会にも参加せず、ただ会費とフォスタープランの拠出金を出すだけの名ばかりの同窓会員ですが、この度、各コース修了を重ねているうちにグランドスラム達成者となっただけの事です。それにつけても同窓会活動は毎年、会報の発行と趣向をこらした行事の実施と、会員の関心を放送大学に引きつけていることに感心しております。

ここで、小生の学習の経歴を少し紹介しますと、1985 年 4 月の最初の学生募集に、最初は力試しにと選科履修生として入学し、次からは、全科履修生として入学しました。一時、「放送大学症候群」という言葉ができたくらい、放送大学で新知識や関連の知識を広く学ぶと、さらに、他のコースを学んでみようかと再入学者が少なからず居たものです。現在でも、同様ではないでしょうか。小生も、同様にひたすら次々とコースをとった結果、グランドスラムになったに過ぎません。計算上、最初の 1 コースは 4 年、後の 5 コースは各 2 年、合計 14 年で全コース修了できるわけで、25 年もかかったのは自慢できるものではありません。後の 5 コースは専門科目だけでなく、諸語学中心に余分な単位や、最近「科目群履修認証制度」ができ、「歴史系博物館プラン」の認証を得ました。

ここで、反省点を述べてみると、ひたすら単位をとることに重点をおいたため、職場業務に一部は活用しましたが、国家資格の取得に活用しなかったこと、地域には外国人が少なからず居るのですが、外国語単位も初歩の段階を取得しただけなので活用することはなかった、ということですが。

不況下の折、中小企業診断士や税理士、最近では福祉関係の資格など放送大学の科目を活用し、プラス  $\alpha$  を自習してこれらの国家資格を取

得しておく、定年後の再就職や独立起業に役立つことと思います。専攻特論ですが、当初の 2 コースは必修で、前の年から準備を始め、当年にいざ書いてみるとどうしても、あれもこれも書き、页数超過はもとより、論点が曖昧になり、何度か書き直しを命ぜられたものです。その後、選択制の卒業研究となり（代わりに 6 単位の専門科目をとる）3～5 コース目はこれにより卒業しましたが、受身の授業だけでは物足りなく、大学修学の意義は、自ら研究することにあると思い最後の 6 コース目は卒業研究をしました。皆様にも 1 度は卒業研究をすることをお勧めします。

何はともあれ、放送大学神奈川同窓会創立 20 周年おめでとうございます。

## 会員からの寄稿

### 放送番組制作見聞記



石橋 正彦

このたびは、同窓会設立 20 周年を記念しての『波濤』40 号の発刊を心からお祝い申し上げます。同窓会の一員として、祝意の意味で、拙文を寄稿させていただきます。

放送大学における放送番組制作の様子を見学し、日頃自宅や学習センター視聴覚室で何気なく見ている、あるいは聞いている放送番組の制作背景を知る機会が与えられた。私自身これまで放送番組制作について知らなかったし、また関心も無かったが、大変な作業やご苦労のもとに番組が作られていることに気付かされたことから、一般学生の立場ではテレビ番組やラジオ番組の制作過程について知る機会はほとんどないと思われるので紹介を試みることにした。なお、内容の一部は講師向け「放送教材ハンドブック」によった。

放送大学の講義科目はおおよそ 360 あるが、これらは 4～6 年で更新される。平成 22 年度は 76 科目の更新が予定されており、各科目とも 15 回であるから、1,140 回分の番組が制作される予定で、テレビ番組とラジオ番組はほぼ半々とのことであった。放送番組は幕張の本部制作棟で作られ、1 階にテレビスタジオ、2 階にテレビ副調整室、3 階にラジオ用スタジオと副調整室が各 2 室ある。主調整室は全国に電波を送り出す際の調整を行う部屋で、制作はすべて副調整室（コントロールルーム）とよばれる部屋で行う。

先ずテレビ番組について紹介しよう。担当講師が 15 回分の放送教材原稿を執筆し、制作担当ディレクターに渡されると 15 回分の台本（スクリプト）が作られる。この際台本作成と共に、必要に応じて「ロケの準備・実施」「パターンやテロップの準備」「小道具の発注」「資料映像の検索・発注」「著作物の権利見積もり」などの作業も進められる。

先ず台本。私が見学させていただいた番組の台本は、表紙にタイトル、番組コード、担当講師氏名、製作担当プロデューサー・ディレクター名、放送開始時期、放送年間、収録日、収録スタジオなどが記載されている。さらに 1 頁目にスケジュール、技術スタッフ名、ロケの有無、2 頁目に収録スタジオ名、出演者の位置、カメラの位置などが、詳細に記されており、引き続き講義 1 回分のせりふの入った頁が 50 頁ある。これらの頁は上段にパターン（テレビ画面で図・表などが提示されるが、これをパターンと呼ぶ。A3 サイズで必要枚数が準備されるが、この準備・作成も講師と担当者とのやり取りでなかなか大変とのことであった）が、下段に講師の講義内容のほとんど全部、それこそ、「皆さん、こんにちは」に始まるせりふが書かれている。これに講師は適時内容を付け加えながら、ほぼ台本に沿ってカメラに向かって話すことになる。

収録に先立ち、出演者はメイク室で専門のメイク担当者により、とくに照明で反射しないように顔にメイクが施されるが、メイク担当者は収録にも立会い、さらに手直しをすることもある。講師のメイクが終わるとリハーサル室でカメラ・技術などの全スタッフと共に台本に従ってディレクターの進行により講義内容の確認作業が慎重に行われ、次にスタジオでカメラを前



にしてカメラ角度や講義の際のパターン使用などについてのリハーサルが行われる。

そしていよいよ本番である。TVスタジオは1階にあり、ブルースタジオとグリーンスタジオと呼ばれている。これらスタジオにはそれぞれ4台のカメラがあり、2人のカメラマンが操作する。私が見学させていただいた収録はブルースタジオで、主任講師と担当講師の2人による対話型の講義であった。4台のカメラのうち、カメラAは主任講師、カメラB・Cはパターン（上下2段になって担当講師のすぐ脇に置かれている）、カメラDは担当講師をそれぞれ撮影していたが、これが概ね標準の方式とのことであった。また頭上にはいろいろな高さ・角度で100以上もの各種ライトがあり、用途に応じて点灯され、出演者は強力に照らし出される。

放送大学にはブルースタジオとグリーンスタジオの他に学園スタジオと呼ばれる小型のスタジオがあり、これは専らクロマキーという合成技術で背景にCGなどをはめこんで収録する際に使用されている。

収録にあたり、2階の副調整室ではディレクターが中心となり、モニターを見たり、音声を確認したりしながら、スタジオにいるフロア・ディレクター（FD）とサブ・ディレクター（SD）にマイクを通して実際の進行の指示を出し、また講師に声の出し方やカメラアングルなどの注文をつけたりする。この副調整室にはAUD（音声）、ディレクター、TD（技術統括）、VE（映像調整）、LD（照明）の順で5人の技術スタッフの席があり、各担当者の前にはそれぞれ数台ずつ、計36台のモニターが前面の壁一杯にあって、4台のカメラからの映像やVTR映像が適時映し出されて収録・編集作業が行われる（写真1）。



(写真1)TV副調整室

さらに部屋の後方にはVTRオペレーターが8台のモニターを前にして控えている。これらの技術スタッフの他にプロデューサーが全体の指揮を執っているが、プロデューサーは本番時にはディレクターが実際的な収録作業を進めている。また副調整室の隣には機械室があり、各種の複雑な機械類が置かれている。

収録は台本に沿って幾つかのパートに分かれて順番に行われるが、途中しばしばディレクターの指示で中断され、表現や用語、あるいは声の高低などの修正がなされる（写真2）。



(写真2)スタジオ風景(本番直前)

収録後は内容がチェックされ、場合によっては再収録となることもある。収録・中断されたVTRはオペレーターにより編集機で内容をつないで録画原版が作られ、最終的にダビングされて各学習センターなどに送られるDVDが120部ほど作成されることになる。収録に立ち会って見学させていただいたが、スタジオ、副調整室とも、日頃自宅や学習センターで気軽に視聴しているのが申し訳ないような緊張した収録風景であった。

テレビ番組では、実際の講義一回分の収録時間は42分程度で、タイトルや講師氏名など番組前・後に入るテロップ3～4枚の撮影、また番組と番組の間に入れられる風景など短時間に流されるフィラーと共に別途作成される。

講義の収録を支える技術陣はプロデューサーだけが放送大学の職員で、他のスタッフはNHK関連のNED(NHKエデュケーショナル)とMD(メディアテクノロジー)などの会社からの派遣もしくは出向とのことであった。

テレビ番組収録に比べてラジオ番組収録は簡素のようであった。収録用にR-A室とR-B



室とがあるが、両方ともほぼ同様の部屋で、中央部にマイクとライト、そしてデジタル時計の置かれたデスクと一脚の椅子があるだけである。収録室は周囲が嚴重な防音壁で、その一面だけにガラスが入った大きな窓があり、隣の副調整室からの指示が見えるようになっている。副調整室には担当するディレクターとオーディオ担当者の2名だけがいるが、ディレクターは開始の合図をした後はただひたすら出演者の読み上げる声に耳を傾けている。オーディオ担当者はずらりと並んだ機器を前にして全神経を傾けて録音作業を進める（写真3）。



(写真3)ラジオ副調整室

出演する講師はあらかじめディレクターと打ち合わせて作成した原稿を制限時間内に上手く読み終わるように、時間を気にしながら読むわけである。この際、私も経験したことであるが、生の声で語りかけるように、と言われていてもなかなか慣れないと“語る”より“読む”になってしまい、意外と難しい。また普段何気なく使っている用語でも、放送となると差別など禁止用語や、表現が分かりにくい語が含まれてはいけないので、思わぬチェックが入ることがある。練習のときには原稿通りに正しく読んでいたのに、いざとなるととんでもない読み違いを無意識でして、後から指摘されたり、思わず舌がもつれるというようなこともある。そのような時は収録が終わった後にディレクターの指示でその部分だけを読み直したり、あるいは用語を変えてより聞きやすいように録りなおしをする。最近はテープを使用せず、コンピューターでデジタル化した波形で修正部分を切り取って置き換えることが出来るので、以前より収録がやりやすくなっているとのことであった。さらに収録されたテープが1週間ほどして講師に送ら

れて内容の再チェックが求められ、必要に応じて部分的な再修正や再収録をすることもある。

ディレクターが窓の向こうから手でキュー(cue)の合図をすると出演者は原稿を読み始めるのであるが、適時中断してやりなおしたり、休憩することは出来る。マイクを前にしての収録というのは思ったより孤独な作業で、デスク上のデジタル時計の動きが結構気になる。講義は45分という時間が決められているが、ラジオの場合もテレビと同様、イントロとエンドタイトルの時間が音楽と音声合わせて3分ほど取られるので、実際は「42分±30秒くらいお願いします」と指示される。このイントロとエンドタイトルは専門のアナウンサーによって出演者とタイトルなどの内容が紹介されるのであるが、これらはまとめて別に収録される。

以上が見学させていただいて見聞した概要であるが、日頃「もう少し分かりやすいように、あるいは眠くならないように講義してほしい」などと無責任に視聴して学んでいた放送番組も、今回その舞台裏を拝見し、収録風景を見聞してみるとその作業はなかなか大変で、これからは視聴にあたってもっと真面目に取り組まねば、と考えさせられた次第である。学生諸子も業務に支障の無い範囲で見学は許可されるので、卒論などの際に専任教員などをお願いして一度収録の様子を見学させて頂くと、学びに更に力が入る方も多く居られるのではないだろうか。



放送大学本部

## 面接授業『出羽路の芭蕉』を受講して

## その 2

(その 1 は、『波濤 39 号』で掲載済み)



永井 藤樹

ここから最上川の章に入ります。「白糸の滝は青葉の隙々(ひまひま)に落ちて、仙人掌、岸に臨みて立つ。水みなぎって舟危ふし」。「五月雨を集めて早し最上川」。陸奥・山形の山野に降り注いだ五月雨を集めて、水量を増した最上川は水勢、いよいよ急に流れ下って行きます。そしてその日のうちに出羽三山に登ります。翌四日、南谷の本坊で俳諧興行。「ありがたや雪をかをらす南谷」。(ありがたいことに、この南谷の別院には、下界の暑気をよそに、真夏の南風が霊山の残雪をかおらせて、清浄の気がみなぎっている)

八日(実際には六日)防寒具をまとい宝冠で頭を包み、強力に案内されて 1980 m の月山に登ります。雲・霧のたちこめる山気の中、氷雪を踏んで登ること八里。雲の関に入って行くような心持で、息も絶え絶えに身体も凍えきって山頂に達し、夜明けを待つうちに朝日が昇りはじめます。待つうちに芭蕉は三尺ばかりの桜木の蕾に、ふと気が付きます。そして雪に埋もれながらも、咲く春を忘れずにいる花の心に想いを寄せます。宿坊に帰って、三山巡礼の句々を短冊にしたためます。その一句「涼しさやほの三日月の羽黒山」。(羽黒山の上に、三日月が淡く浮かんでいるのがほのかに見える。心の中が清く涼しくなるような神秘的な眺めである)

十日、羽黒を発って、現在の山形県鶴岡市(庄内藩十四万石の城下町)に着き、川船に乗って「出羽路」最後の地、酒田の港に下ります。「暑き日を海に入れたり最上川」(真っ赤に焼けた太陽が今にも海に沈もうとしている。“ジュツ”と音がして湯気が立ちそうである。やがて最上川の河口からは、夕風が立ち始めるであろう)夏の暑い一日が今まさに暮れようとして、ホッと一息入れている芭蕉の姿が浮かんできます。

酒田を経て象潟へ。次の越後路の章から「北陸道」になります。講義では出雲崎で吟じた「荒海や佐渡に横たふ天の河」を解説して戴きました。解説の必要のないくらい有名な句です。「おくの細道」きっての絶唱と言われています。七夕の前夜七月六日(陽歴 8 月 20 日)の夜。暦の上では秋。黒々とした日本海の荒海、その荒海が隔てるかなたに流人の島、佐渡ヶ島が遠くに横たわる。天上には銀河が白くかかり、牽牛、織女星が瞬いている。天地の寂寥の極みを呈示しています。しかし、この句は見事な空想の情景であって、芭蕉のイマジネーションの雄大さによって生み出された句です。八月の下旬は台風でも来ない限り、日本海は「荒海」になることはありません。また佐渡ヶ島の上空に「天の川」が横たわって見えることもありません。このフィクション性は、「芭蕉の文学的想像」として高く評価されています。

この句は写本には書かれていますが、木版刷りには載っていません。それはこの句が幕府の政治を批判していると受取られ、発禁の恐れがあったからだといいます。徳川幕府は佐渡ヶ島に囚人を送り込んで金山開発をしました。佐渡からは日本海の荒海に隔てられて戻ることができない。いや戻さない。一方天上の天の川では牽牛星と織姫星が、年に一度は出逢えるというのに地上の政治は、なんと酷薄・無慈悲なものかという解釈が成り立ちます。

「おくの細道」は、「発端」の一句に続く「旅立ち」の章で「行く春や鳥啼き魚の目は涙」の「春」で始まり、最終章の大垣で「蛤のふたみに別れ行く秋ぞ」の「秋」で終わっています。元禄二年(1689)四十六歳の晩春三月二十七日深川を出船、同年晩秋九月三日大垣着で締めくくっています。「行く春や」の一句に、「行く秋ぞ」を対応させて、人生が無限に続く旅であることを示し、冒頭の主題「月日は百代(はくたい)の過客(くわかく)にして、行きかふ年もまた旅人なり」にひびかせ、心憎いまでに見事な構成になっています。日数百五十日、旅程六百里に及ぶ長旅の疲れもさめやらぬ中、九月六日芭蕉は美濃の大垣より舟に乗って、「伊勢路」へと旅立って行きます。

「佐渡」のところでも述べましたが、「おくの細道」のフィクション性、つまり芭蕉の「文学的想像」は「曾良随行日記」の発見で、脚色が入っ

ているのが分かりました。平泉の章で「二堂開帳す」とありますが、「曾良日記」には「別当留守ニシテ行不開」とあり、開帳されていなかったのがわかります。「曾良随行日記」と、その後発見された芭蕉の自筆本「おくの細道」で、芭蕉研究の資料は出揃ったと言われます。

「山寺芭蕉記念館」で行われた座学は、畳敷きの座敷・長机の寺子屋式の授業でした。足の具合で座ることが辛い人や、場所的に座敷机に座れなかった人は、小机付きの椅子に着きました。この授業での特徴は、「おくのほそ道」の各章を朗読したことでした。座敷から一段と高い舞台の上に立ち、マイクを通して各人が全員に向かって、くじ引きで割り当たった章を朗読しました。読むのが好きな人は進んで二章を、先生も朗読しました。朗読の始めと終わりに拍手し、励ましと慰労・感謝の意を表しました。

辻本雅史先生の放送授業『教育の社会史』では、音読の身体性を強調されています。心、眼、口などの身体器官を動員した読書により「声帯を震わせ、息の出し入れ、口やあご、舌などを変化させて、音の響きや、抑揚がリズムをもたらし、ある種の全身活動を伴い、言語が身体に刻印される」と言っています。そこが近世の教育方法と、黙読の現代の教育方法の違いだと言います。音読は忘れられた教育方法ではないか。復権することの重要性を唱えられています。

私は最後の「大垣」の章の前「種の浜（いろのはま）」を引き当てました。滑らかには読めませんでしたでしたが、とても気分よく朗読できました。短い章なので転載します。音読して下さい。「十六日、空晴れたれば、ますほの小貝拾はんと、種の浜に舟を走（は）す。海上（かいしょう）七里あり。天屋何某（てんやなにがし）といふ者、破籠（わりご）・小竹筒（ささえ）などこまやかにしたためさせ、僕（しもべ）あまた舟にとり乗せて、追ひ風、時の間に吹き着きぬ。浜はわづかなる海士（あま）の小家にて、侘しき法華寺あり。ここに茶を飲み、酒を暖めて、夕暮れの寂しさ、感に堪たり。「寂しさや 須磨に勝ちたる 浜の秋」。「波の間や 小貝にまじる 萩の塵」。その日のあらし、等裁に筆をとらせて寺に残す」（ここ種の浜の夕暮れの寂しさは、寂しさの極みと言われる須磨のそれよりも、なお立ちまさっている）。（さざ波の寄せる浜辺の波の絶え間を見ると、砂浜の上に西行が歌によんだ

ますおの小貝がいっばいに散らばっていて、その貝の間に萩の花屑も散りまじっている）。2度目の朗読で意味がわかります。3度目ではリズムが出てきて、爽快な気分になるはずです。

この授業が「おくの細道」シリーズの最後になりました。当分再開はないでしょうが「発端」の章から「大垣」までの全行程を、各学習センターが分担して復活して戴けたら、素晴らしい『おくの細道』シリーズになるだろうと思いました。

終わり



山寺芭蕉記念館

## 放送大学同窓会のトップランナー



後藤 雄二

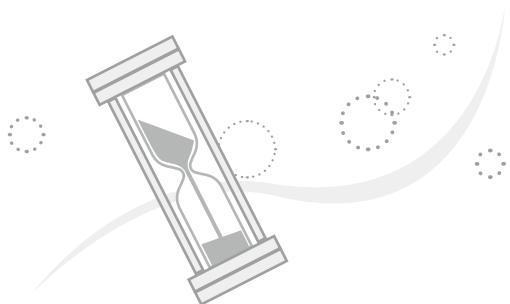
私は仕事柄、横須賀の中学生と話をする機会が多いが、ある時、歌手の山口百恵の話題に花が咲いた。彼女は横須賀出身の国民的歌手であったが、引退して30年ほど経ったいま、現代の中学生も名前ぐらいは知っているようだ。彼女がデビュー前に在学していた中学校の生徒などは、伝説のようにその名前を耳にしているという。しかし、具体的にどのような歌手であったのかはほとんどの中学生は知らない。花の中三トリオや新御三家の時代に育った私などは、懐かしい歌謡界の話には嬉々としてしまうが、現代の中学生からは妙に冷めた目で見られ

てしまう。ちょうど私が中学生の頃、大人たちが美空ひばりの活躍ぶりを夢中になって話していて、何の反応も出来なかった自分を思い出す。しかし、後日、テレビで古い映像を見たある生徒が、山口百恵は素晴らしい、と目を輝かせ始めた。21世紀の中学生が、70年代のスターに夢中になっている。

「十年一昔」とは使い古された言葉であるが、味わい深い言葉でもある。世の中の移り変わりが激しく、十年も経つともう昔のことになってしまう、という意味のようだが、神奈川同窓会の歴史はその十年を二つ重ねたことになる。

歳月の流れを十年を一区切りとして考えるのはいかにも分かりやすい。私は大学を卒業して就職したとき、恩師から「とにかく十年は何があってもその職場を離れず頑張りなさい」と言われたことがある。それを忘れずに働き、十年経ったとき、自分らしい仕事が悠然と出来ていることに気がついた。その話を恩師にしたら、「そんなこと言ったかなあ」と言われ、笑うしかなかったが、十年という歳月はそれなりの重みがある。二十年ともなれば、ちょっとした風格すら感じられる。

ホームページに掲載の「波濤10周年記念誌」を拝読すると、私の知らない放送大学の表情がたくさん見えてくる。その発見は興味深く、自分の中の愛校心が騒ぎ始める。二十年前、私は放送大学の存在を知らなかった。しかし、学ぶことを欲し始めたら、その勇姿は眼前に現れた。四年前に大学院を修了し、私も同窓会会員の一人になれた。今後、同窓会の歴史が年々歳々刻まれていき、数十年後にこの記念誌も、「こんな時代があったのですね」と手探りのように垣間見られる日が来ることと思う。一世を風靡した歌手は、新しい人たちには疎遠であるかもしれない。しかし、何かのきっかけで、その歴史を繙くと、その存在感や価値あるものが見えてくるように、神奈川同窓会も、放送大学同窓会のトップランナーとしての歴史を、さらに構築し続けていってほしいと思う。



## 医師不足に悩む地方病院



佐菜 慎二

地方の病院が医師不足から閉鎖に追い込まれ、住民が医療難民になっている話は最近マスコミでたびたび取り上げられていますが、私も1年半前から義弟が理事長をしている岡山県津山市の病院の経営に参加して同様な問題に直面しています。

津山市は岡山県北部にあり、人口は11万人で、近隣の町を加えると医療人口は20万人の地域の中核的な町です。江戸時代には宇田川家、箕作家から多くの蘭学者を輩出し、洋学の伝統があって、病院の多い町ですが、住民の高齢化・過疎化が進んだことや後継者難から、救急患者の受け入れや、手術や入院ができる急性期の病院は、当院を含めて2つになってしまいました。そのような中で当院は地域の医療の充実を目指して、5年前にベッド数を2倍に増やし、211床の新病院を建設しました。必要な医師については、大学の医局からの派遣を中心に、それまでの2倍の20名を確保する計画でした。

しかしちょうど2004年度に医療制度改革が始まり、医師の卒後研修が必修化されたため、学生が研修環境の整った大病院に集中したことから、当院のような地方病院がそのしわ寄せを受け、派遣医が引き揚げられ、結果的に医師は逆にそれまでより減少してしまいました。その結果医業収益は目標には遙かに届かず、巨額の借入金の返済する資金繰りのメドが全くたたない状況に陥りました。私がこの病院に関わりしたのは、昨年2月このような危機的な状況の中でした。地域住民や行政からは、急性期の病院の一つとして存続することを強く求められておりましたので、法的手続きに則って再建を図るしかないと判断しました。負債総額は60億円で昨年の病院破綻の最大案件になりました。その後1年かけて再建計画を作成し、今年6月に裁判所から計画の認可を取得し、現在再生に向けてようやく走り出したところです。

地域には高齢の患者さんがたくさんおられ、

病院は常に満床の状況です。研修制度の問題に加えて、若い医師が子供の教育環境を考えて都会に集中する傾向も強くなっています。久しぶりに地元に戻ってきて、地域経済の疲弊ぶりや高齢化・過疎化の進行には驚くほどです。これからの日本は行き過ぎた競争原理を見直し、医療や福祉、教育、さらに地域の高齢者が安心して暮らせる社会にならなければならないと痛感しています。

なお私は裁判所の認可を得た段階で横浜に戻ってきましたが、非常勤として引き続き経営に参加しています。この1年半の間は神奈川学習センター所属のまま、岡山学習センターで勉強と試験を受けさせて頂き、昨年9月に放送大学を一旦卒業し、10月から新規のコースで引き続き勉強しています。

## NEW YORK 5週間 ぶっつけ本番一人旅

大島 キヨ子

<出発まで> 5週間分の荷物をスーツケースに詰め込んで成田からNYへ飛び立ったのが5月6日。飛行機の搭乗券と座席を始めてネット予約した。予約のつもりがクレジット番号を入力してしまい、「購入」になってしまった。葛藤は出発直前まで続いたが、「今」に後押しされて「私の挑戦的冒険旅行」は現実のものとなった。

<旅のスタイル> 英語圏で英会話を試す。儉約思考で欲張り旅行を楽しむ。携帯とパソコンを持たず公共の図書館で無料PCを使う。Hostelを利用して長期滞在する。観光より人との交流を楽しむ。「百聞は一見に如かず」を実感する。「郷に入っては郷に従え」を実践する。「求めよさらば与えられん」を試す。この思いを身をもって体現するために、とりあえずNY初日から11泊のHostelを日本で予約した。その先は全くの未定。何処に泊まって、何をして、何処へ行くのか、現地で決めることにした。

<HOSTEL> NYのHostelで世界各国の大学生と同じ部屋で料理したり食べたり話したり、日本では体験できないことを楽しんだ。ホステ

ル利用者には私のような年配者、半身不随の女性、巨体で歩行器が必要な女性、腰の曲がった男性、妊娠中のカップル、二児を連れた家族と利用者は千差万別だった。現に私はここでボストンHostelから来ていた韓国人学生に街の様子を聞いて地図を貰い、結果として12泊目から4泊5日のボストン行きを実現した。またボストンHostelでドイツ人学生にナイアガラ観光の内容を聞いてこれも実現した。

<図書館> NYでの利用方法や使用時間は図書館によって様々。15分から45分。秒単位の数字が気になって始めは何も手につかなかったが、スタッフに聞いて家族にメール送信が成功した時は嬉しかった。写真添付も一回成功した。英語とローマ字で近況を知らせると、返信も英語混じりのローマ字だった。ローマ字に感謝!

<帰国> 今回の旅は健康に恵まれ、精神的にも異文化や異年齢集団との交流が苦にならない自分を再発見した旅だった。人と出会い、人に助けられ、人と楽しみ、人に感謝する5週間だった。結果としてLucky & Happyだった。空港待合室で京都旅行をするNYの学生グループに私がHostelでの様子を話すと、「Oh, that's great!」と言った。帰りの機内で、5週間ぶりに飲んだビールは、最高でした!



New York ユースホステル



## 社会貢献活動

### 神奈川同窓会と フォスター・プラン活動 ～小さな力を未来につなぐ～



星 礼子

この度は神奈川同窓会創立 20 周年おめでとうございます。波濤記念誌を発行するにあたり、魅力ある活動のテーマとして参画した社会貢献の一つ、フォスター・プラン活動と同窓会との関わりをお話したいと思います。

フォスター・プランとは(以後 F・P という) F・P は 1937 年スペイン内戦時、一人の戦災孤児を路上で保護したイギリス人ジャーナリストから活動が始まり国際本部はイギリスにあります。国連に公認登録され活動地域は 49 カ国、支援国は 17 カ国にのぼり、途上国の子どもと共に地域の開発支援プロジェクトを進める国際 NGO です。

#### 同窓会とチャイルド

当同窓会が発足した翌年、1991 年(H3)12 月に F・P 実行委員会が設立されグアテマラのピラールちゃんが最初のチャイルドとなりました。先輩方は何度も F・P 協会へ足を運び、数ある社会貢献の中から決めた F・P 活動と聞いています。間もなく 2 人、3 人とチャイルドが増え 2000 年(H12)からは 5 人のスポンサー(ペアレント)として、また 2010 年(H22)9 月現在、支援開始から 19 年間に延べ 16 人のチャイルドと子ども達の住む地域を、皆様の寄付のお陰で継続支援しています。

チャイルドの登録終了は、18 才に達した時、援助圏外への転出、住民のプロジェクトの成果が上がった時などですが、パキスタンのフェイザン君の場合は、現地事務所が紛争で破壊され F・P の支援が不可能になったケースでした。

#### 印象に残る事

私は平成 6 年より同窓会役員になり F・P 委員として今春迄 16 年間携わった中で、いろいろな事を経験させて頂きました。

\*チャイルドとの手紙や写真・絵などの交換。一番大切な心温まる交流であり「1 年の歩み」と共に届くチャイルドの成長はとても楽しみです。談話室の同窓会の掲示板にも最新の便りを紹介していますので是非ご覧になって下さい。

\*1997 年(H9)、F・P 協会の伊勢崎賢治氏による講演会。スポンサーとして現地のプロジェクトにシビアナ目を向け積極的に質問する事が大切であるとの、現地から見た講演内容でした。その後伊勢崎氏は、アフガン等の紛争国で武装解除させるなど国際平和維持活動の仕事にも就き、懇親会で語り合ったのも思い出です。

\*2000 年(H12)2 月、タイのソムチャイ君を 6 人のメンバーで訪問。この目で会員からの寄付金かどのように使われているか確かめる貴重な体験でした。6 月には学士会館で開催された同窓会本部創立 10 周年記念行事で神奈川からはチャイルド訪問記を発表。また神奈川同窓会創立 10 周年記念誌にもチャイルド訪問の報告が掲載されました。(同窓会ホームページ hatoh-net「波濤」19 号、20 号、39 号に関連記事掲載)

#### 今後の F・P 活動

F・P のプログラムも現在では、私達が参加している継続的な寄付とチャイルドとの交流・地域開発を支援するプラン・スポンサーシップ、一般及び特別プロジェクト、緊急・復興支援等があります。今年の 2 月にベトナムのスクール・スポンサーシップの講演をお願いしましたが、今後は新しい試みもプラスしてみるのも良いのではないのでしょうか。私達の F・P 活動に賛同し他の学習センターの方や学生からも寄付を頂くことがあります。未永くこの F・P 活動が存続していけます様願っております。







バングラディッシュ  
ロジーナちゃん



バングラディッシュ  
スバシュ君



インドネシア  
リファルダス君



マリ  
マドウ君



グアテマラ  
ジャクリーンちゃん

フォスター・プランの子供たち

国名	名前
グアテマラ	ピラールちゃん
グアテマラ	ラモス君
グアテマラ	エリザンドロ君
タイ	ソムチャイ君
ケニア	ルーシーちゃん
バングラデシュ	バロバラちゃん
エクアドル	レオニダス君
インド	ラビ・ナリゲ君
中国	ジェンメイちゃん
パキスタン	フェイザン君
バングラデシュ	ピュチュルちゃん
バングラデシュ	ロジーナちゃん
バングラデシュ	スバシュ君
インドネシア	リファルダス君
西アフリカ	マドウ君
グアテマラ	ジャクリーンちゃん

## 波濤ネットの会

波濤ネットの会へのお誘い  
hato-net@yahoogroups.jp



岡本 興和

波濤ネットの会は hato-net@yahoogroups.jp を介して双方向の通信を行うネット網の会です。2007年11月に開局し、この11月で4年目を迎えます。登録会員は現在86名で通信を行い身近な情報を分かち合っています。会員の発信したエッセイや情報、神奈川同窓会の社会貢献事業のフォスター・プランの最新のニュース、鎌倉や浅草 歌舞伎鑑賞などの同窓会行事の写真入りレポート、NHKホールでの学位記授与式やホテルでの卒業・謝恩パーティーの様相などなどいち早くお届けをしています。

また神奈川同窓会のホームページとの連携を深め、投稿があると波濤ネットの会の会員にはいち早くお知らせしています。メール会員以外の会報紙波濤の読者には神奈川同窓会の活動状況をお届けしておりますが、年2回の限られた紙面になっています。「hato-net」は時間・空間・距離を飛び越えて瞬時に皆様との情報を分かち合う、仕組みなのです。波濤ネットの会に入会は簡単です。希望者はお名前、アドレス、ウイルス対策ソフト名を明記してシステム管理者のアドレスに送信をして頂ければ登録致します。宜しくお願い致します。

システム管理者 岡本興和  
okow1439@hotmail.com

## ホームページ

### 神奈川同窓会ホームページ 管理者からの報告



寺村 紀美夫

神奈川同窓会創立20周年記念にあたり、同窓会ホームページ管理者からホームページに関し、以下にご報告を申し上げます。

放送大学神奈川同窓会ホームページ(以下「HP」)は第7代会長 五十嵐氏の時代から懸案となっていたと聞いている。そして、第126回役員会(H19/4/8)にて19年度中に懸案のHPを開設させていくことが決まり、更に第18回通常総会(H19年6月)にて参加会員にHP開設することを発表した後、本格的にHP開設の準備を行うことになった。

#### I. 準備から開設までの経緯

1. H19/4/8 第126回役員会にてH19年度中にHPを開設する事が決まりスケジュール等の「叩き台」を寺村が次回役員会に提案することとなる。

2. H19/5/19 第127回役員会にHPの開設迄の「叩き台」を提案する。

3. H19/6/3 第18回通常総会にて19年度中にHPを開設することを会員に発表し賛同を得る。

4. H19/6/30 第128回役員会にて「叩き台」を審議す。その結果以下を決定す。

①開設担当者：岡本氏、吉原氏、寺村

②スケジュール：テスト版開設：H19年9月～11月末本番開設：H20年1月初め～

③各ページの内容(コンテンツ)役割担当：各役員等を決定す。

5. H19/8/11 第129回役員会にて

①アドレス登録を発表

②テスト版の開設を9月中旬と発表

③その他コンテンツの要請する等を諮問し決定する

6. H19/8/14 テスト版を役員各位に発表し、次の各日に更新する(9/24、10/12、11/7、12/10)。

7. H20/1/1 本番を開設する。

#### II. 開設迄の苦心談

第126回の役員会にてHPを開設することが決定したが、誰がそれを推進するかが問題であった。役員の中で誰もがHP開設の経験が無く、私(寺村)のみがHP開設のソフト(旧式の)を持っていたためと、かなり以前遊び程度のHPを持っていたためお鉢がまわってきた。しかし私も本格的なHP開設は全くの素人であり、どのように開設していくのかは不明であった。しかし開設担当と決まったのでやむなくHP開設のためのマニュアル本を買い求め、首っ引きで読み漁りソフトも最新のものを買い求めて、ようやく約束の期日(H19/9/14)にテスト版の開設に漕ぎ着けた。

しかし、テスト版発表するまで苦心惨憺であった、どうしてこんなものを引き受けたのだろうと何回も後悔の心境であった。今それを省みても冷や汗ものである。

この時期は放送大学の単位認定試験のため8月初旬まではHPに手を付けられないので、スタートは8月中旬からでその後、酷暑の中、約1ヵ月間でテスト版を作り上げることとなったのである。この間は多少涼しくなった夕方から真夜中まで略毎夜マニュアルを見ながら1ページ毎に作っていくのですが、巧くいかず失敗し何回もの繰り返しの作成となってしまうのである。9月になってようやくテスト版の見通しが出来てほっとしたものである。

テスト版発表前後、役員各位より各種のコンテンツ(各ページに貼り付ける内容)を頂き本番に向かって各ページの作成を行った、本番に対しては時間もタププりあり、且つジックリと各ページ作成もできたので略満足ほほのHPとなったのではないかと考えている。

### Ⅲ．開設から現在までの話

HPは平成20年1月1日より本番開設しました(「波濤 第35号」にて既報告)、以下にその後から現在までの状況(苦心談等)をご報告致します。

#### 1. 画像(静止画像と動画)掲載の状況

HPは写真等の画像が綺麗で、且つ新鮮な情報を提供することが生命と言われてる。また役員会にて画像の掲載を主力にするように要求されている。そのため、管理者としてはHPへの画像掲載は神経を使っている。通常、HPへ掲載する静止画像はデジタルカメラで撮影したものを一枚一枚チェックし、少なくとも画像ソフトにて「縮小の処理」や「自動補正処理」及び「切り抜き処理」等を行っている。そのために各行事やイベントの画像を処理してHPに掲載することは大変細かく時間の掛かる作業となり、神経を使っている。

また、画像そのまま掲載するととんでもなくページ数が多くなってプロバイダーの容量が満杯になっていた。これを改善する方法を悩んだ末、インターネットの検索にて各種調査をした。その結果、多数の画像(動画含む)をページ数増加(契約プロバイダーの容量増加不要)が必要のない外部のWeb画像編集にアップロードすることで画像をHPを経て見ることができることを発見し、その方法にて従来の画像を編集(かなり時間がかかった)しました。その結果プロバイダーの容量に空きができたまだページ数が増やせるようになった。

このWeb方式であると、画像を見るのに一旦HPから離れるので厄介なことかもしれませんが、HPを格安に維持し、且つHP容量に余裕をもたせるためですのご了解願いたい。

#### 2. 「波濤」記念号の掲載に四苦八苦

本年(H22)度は創立20周年記念誌「波濤」40号が発行される予定となっている。それをHPに掲載することが本年度役員会にて略決定した。この記念誌をHPに掲載する前に発行済みの創立10周年記念誌をHPに掲載できるかを事前にテストすることになった。しかしこの創立10周年記念誌は30ページ以上もあり画像も多数ある。今迄の「波濤」はせいぜい10ページ程度なのであるが、それでもHPにアップロードするには容量が多いため時間がかかり過ぎたり、アップロードが途中で停止したり

で、大変に苦労した。そこでまた考えたのは、Webの利用である。当該記念誌一冊バラバラにし、ページ毎にPDF化してWeb(Windows Live Sky Drive)にアップロードした。これであると高精度のPDFがアップできるので従来より鮮明に画面で見ることができる。

まだ未定であるが、従来HP掲載の「波濤」全てをこの方式へ変更してより鮮明で読みやすくしていく予定である。このテストにてこれから発行する創立20周年記念誌もWebにアップロードすることに自信がついた。

会員の皆様、このWeb(画像や「波濤」)をご覧になったでしょうか? ご覧になっていない方は是非ご覧下さり、ご感想をメーリング(hatoh-net)に投稿をお願いします。

### Ⅳ．現在のHP内容状況

現在のHPのメインメニューは以下のようになっています。

- |            |                        |
|------------|------------------------|
| ①TOPページ    | ⑨卒業式・パーティ              |
| ②会長挨拶      | ⑩会員投稿コーナー              |
| ③会則        | ⑪お問い合わせ                |
| ④総会報告      | ⑫リンク集                  |
| ⑤年譜        | ⑬会員投稿募集(管理者宛てのメールが現れる) |
| ⑥組織        | 同窓会会員証                 |
| ⑦行事        |                        |
| ⑧フォスター・プラン |                        |

この他にサブメニューのページも多数あります。

会員の皆様へ、HPコンテンツ協力をお願い!! HPは内容更新が命とされています。即ちHPの各ページ内容は最新情報、最新コンテンツが必要なのです。

会員皆様のコンテンツを募っています。会員皆様からのHPに載せるためのエッセイ、小論文、詩、和歌、俳句、川柳、写真、放送大学生時代の思い出や感想等何でもよろしいので投稿をお待ちしています。

HPアドレスはこちらですのご覧下さい



[http://www.geocities.jp/hatoh\\_net/](http://www.geocities.jp/hatoh_net/)  
(hとnの間はアンダーバーです)

## 企画行事

### 第一回企画行事を終えて



渡邊 久江

6月5日(土)に「風を感じて歩こう・鎌倉」で鎌倉の葛原岡・大仏ハイキング(約3km)を開催しました。参加者は19名でした。前夜の雷雨の影響もあり場所によって足場はよくはありませんでしたが、新緑と心地良い風の中でのウォーキングを、また、解散後の有志懇親会には17名の参加があり楽しい話に花が咲きました。その後に感想や話題となった植物を調べ、投稿を寄せていただきましたのでご紹介します。

▼北鎌倉駅前に到着すると、既に年配グループ、若い人のグループがザックを背負い集まっていた。歩き始める前に、自己紹介させていただきます。5年ほど前から運動不足気味のため「NPO町田ウォーキング協会」に加入、主に多摩の里山を中心に歩き続けているところです。歩いた距離の累計は延1,420kmになっています。延2,000kmになったら協会本部で認定してもらう予定です。運動の効果は、なんと言っても体重・血糖値が低下したことです。

さて、鎌倉には何回か来ましたが、ザックを背負って来たのは始めてです。早春から初夏にかけてのハイキングの醍醐味は、何とんでも木々の青葉が天空に向かって伸びやかに成長している姿、木々の間を吹き抜ける風、野鳥のサエズリ、何ともいえない爽快感、病み付きになっています。(鯉沼正弘)



鎌倉散策 大仏前2010年

▼野草による指のしびれ痛は・・・?あのシソの葉の親方のような野草は、「ミヤマイラクサ」と判りました。インターネットで調べたのですが、「茎の幹に繊維がある特徴」だけが私のうろ覚えの知識では正解でした。

「ミヤマイラクサ」は、イラクサ科の多年草で、山地の林のへりや道端でよくみられるが、都会でも見る事が出来るそうです。茎や葉にトゲがあるのでイラクサ(刺草)と名が付くが、新芽の頃は、山菜として食用にされるとの事。

又、うかつに触ると痛い目に会う!!と書かれていました。現に、痛い目に会ってしまい、刺されると痛い刺胞があり、ギ酸の作用によって痛むのだそうです。それで「いらいらするから」「イラクサ」という流れで命名されたいのようです。ティーやおひたしにすると美味とか……。尚、ジンマシンはジンマによる症状だが、このジンマこそイラクサのことなので別名「いたいたぐさ」と呼ぶそうです。

その又、驚く別名は、山菜の女王「アイコ」とも呼ばれるらしいのです。

どのように採取して食すのでしょうかネ?

新芽の頃はトゲが無いとか?、あるいは優しいトゲだから大丈夫なのでしょうか。私のしびれ痛は昨日より優しくなりました。

(山田和嘉子)

▼最後に、浄智寺では湿気をたっぷり貯めた岩肌にイワタバコの花を見つけ、可憐な美しさに一時見入って会話が弾みました。その後に永井藤樹さんからは、この花は6月の梅雨時に紫陽花と共に一番見頃のように、東慶寺が有名のようです。志賀健三さんはその後ご家族とこのハイキングコースを歩かれたそうです。また、榎田恵造さんは、このルートは私にとっては大変楽しいものでした。家を出てから帰るまで、



15,500 歩お蔭さまで久しぶり楽しいウォーキングになりました、とお聞きしました。今回のハイキングからそれぞれに持ち帰った話題に違いがあり、思い出深い行事となりました。

## 今後の予定

### 錦秋の小田原へ

第 2 回の企画行事は、地球と生命・自然と人間がともに生きることをテーマの神奈川県立生命の星・地球博物館と「電力王」称され、実業界で活躍する一方で茶道にも造詣が深かった松永安左エ門（耳庵）住居跡の松永記念館（小田原市郷土文化館分館）を見学します。

開催月日：平成 22 年 11 月 27 日（土）  
 集 合：時間 10:00 場所：入生田駅  
 （箱根登山鉄道・小田急線乗入れ）  
 締め切り：平成 22 年 11 月 20 日  
 申込み：渡邊久江 090 - 9201 - 4460  
 nabex@bh.wakwak.com

\* 昼食は各自自由です。博物館内にレストランがありますし、場所も用意しております。時間はおよそ 40 分を予定しています。



松永記念館

### 映画鑑賞会のお知らせ

西山 哲郎  
 恒例の映画鑑賞会を下記の通り開催いたしますので、皆様お誘いあわせの上、お越しく

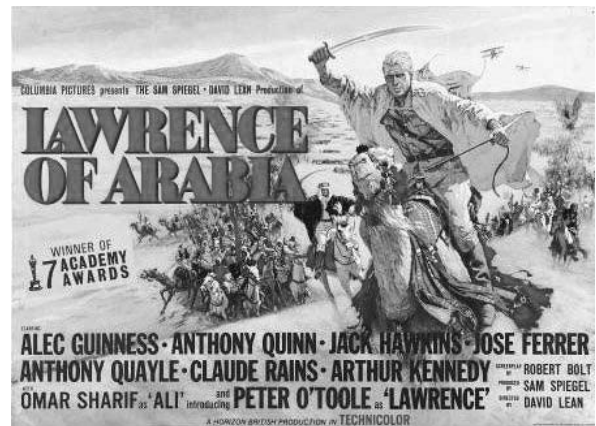
い。映画は、1962 年のイギリス映画の「アラビアのロレンス」です。現在の中東問題にも通じるテーマでもあります。3 時間 30 分になる大作です。

開催月日：平成 23 年 3 月 6 日（日）  
 開催時間：午後 1 時より開始（予定）、  
 終了目安は、午後 5 時 30 分  
 詳細な時間などにつきましては、  
 同窓会 HP をご覧になるか  
 下記までお問い合わせください。

開催場所：神奈川学習センター第 8 講義室  
 映画： 「アラビアのロレンス」  
 （1962 年、イギリス映画）

監督： デヴィッド・リーン  
 主演： ピーター・オトゥール  
 講演：「映画に見る愛の風景」  
 西浦 久晏さん  
 （横浜映画研究会、放送大学卒業生）  
 主催：放送大学神奈川同窓会  
 申し込み：不要です。

直接会場におこしください。  
 連絡先：西山哲郎  
 090-9647-6300  
 e-mail tetsuronishiyama@hotmail.com



アラビアのロレンスの公開当時のポスター

### 「フォスター・プラン」講師による 講演会のお知らせ

赤松 孝子

上記講演会は他日に予定しております。

# 思い出スナップ



日光街道・芭蕉の足跡2006年



芝大神宮 2007年春



2008年度 吉田氏グランドスラム代表



2007年度学位記授与式





石学長2008年度



2008年度 笠井同窓会連合会会長



2008年度学位記授与式同窓会スタッフ



2003年6月浦賀燈明台散策 藤井氏提供



高尾山散策 2009年



浅草演芸ホール前  
浅草浮世絵と落語2009年夏



2009年10月学位記授与式



なまはげ実演2010年5月  
左 赤鬼の小野鐵雄氏  
右 青鬼の吉原司郎氏



鎌倉散策 葛原岡神社2010年6月



- 2009(平成21)年度  
放送大学学位記授与式
1. 開会の辞
  2. 国歌演奏
  3. 来賓紹介
  4. 卒業証書・学位記授与
  5. 学長式辞
  6. 来賓祝辞
  7. 卒業生・修了生謝辞
  8. 学長表彰
  9. 学歌斉唱
  10. 小椋佳氏によるステージ
  11. 閉会の辞
- NHKホール  
2010/3/27(SAT)



沖縄学習センターの皆さんの琉球舞踊



2009年度学位記授与式 NHK

## サークル紹介

### 神奈川放友会



神奈川放友会では、新入会員の入会を心より歓迎いたします。

今回「神奈川放友会」サークル紹介について Q & A の形で纏めました。

Q；放友会とは何の会ですか？

A；「交遊を楽しみながら放送大学で学習を続ける会」です。

Q；どんなことをしていますか？

A；次のように多彩な催しがあります。

1. 「月例会」等で学習に関する研修、諸活動の紹介、会員の研究・論文の発表等
2. 「パソコン勉強会」年 2 回、うち春はエクセル・ワード等の初級、秋は中級コース→ワード・エクセル・パワーポイント等（ワードは「卒業論文」等で即戦力になります。）また適宜インターネットの導入支援も行っています。
3. 親睦旅行（旅に行こう会）・レクリエーション等
4. 学習に関する情報交換
5. 懇親会 お花見、忘年会等も
6. 会内同好会活動（1）文芸研究会（2）放友会俳句の会（3）食文化研究会（4）古典芸能研究会など盛り沢山ですが、興味のあるものから始めましょう。楽しく夢中で活動していると、知らないうちに「卒業おめでとう」といわれます。「百聞は一見に如かず」放友会のホームページをご覧ください。

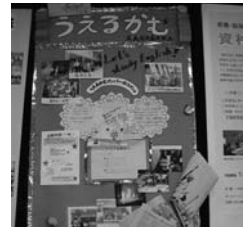
<http://kanagawa-hoyukai.jp/>

入会希望の皆様へ！ 会員は、メーリングリストによる情報交換ができる方、また神奈川放友

会のホームページ閲覧可能な方を想定していません。皆様の入会をお待ちしております。

金田 保男

### うえるかむ Kanagawa



うえるかむ Kanagawa は 1994 年にスタートしました。最近では午前には Native の先生に本場の英語を教わるクラス、午後は English songs と自主学習の時間を持っています。午前には上級・中級・初級とクラスを分け、45 分ずつ Free Conversation をします。Native の先生も 4 人目で、現在は加州大出身の Richard をお願いしています。私達が日常何気なく使っている“英語”が実は“Japanese English”だと教わったり、さらに“このような時にはこういう表現法を”と教わって、“なるほど、ふん、ふん”と思わされたりいつも楽しい教室です。

午後は 15 分間、昔懐かしい、あるいは皆が良く知っている英語の歌を楽しみます。その後、2 時間位、初級・中級・上級と 3 つの部屋に分かれて自主学習をしています。初級は二つのグループに別れ、ロールプレイやテキストを読んでいます。中級は Internet で BBC Learning や、担当者がいろいろテーマを選んで、そのテーマを中心に読み、解釈、さらに関連した話題を話し合ったり、クイズや脱線を楽しんだりしています。上級は在外経験の長い方が多い事もある、いろいろな報道から話題を持ち寄り、各自が解説を加えたり Discussion したり、とレベルの高い自主学習の時間を持っています。中級と

上級の資料の連絡は前もって Internet で配信、各自予習してきます。最近では隔月の第 1 水曜日の午後、「映画で英語を」と「うえるかむ Kanagawa 名画座」を一般公開で開催しています。英語を楽しみたい方、どなたでもどうぞお待ちしております。

石橋 正彦

## 韓国語同好会



韓国語同好会は 2005 年 10 月 1 日に発足しました。神奈川学習センターでの面接授業『初歩の韓国語』の受講者有志で立ち上げたサークルです。翌年、2006 年 11 月 29 日に本部より学生団体として認可されました。ハングルの勉強は隣接する横浜国大国際交流会館住人・現役の韓国留学生に学んでいます。私達の方からも隣国の若者に日本の良さを知ってもらおうと一緒に三溪園や鎌倉、川崎など案内し、生活様式や伝統文化の紹介も、機を捉え伝えるようにしています。

そして、語学だけでなく韓国朝鮮の歴史や文化にも目を向け身近な隣国と感じられるように努力しています。UA 神奈川学習センターだより 2008 年夏号で『近くて遠い国であった隣国、韓国。近年は韓流ブームに乗って文化交流も盛んです』と紹介しましたが、今回の釜山研修旅行記でも述べましたが、教科書では学ばなかった歴史の重さを痛感する旅でもありました。されど、釜山放送通信大学で出会った学生たちは底抜けに明るく、情熱的で日本が大好きで両手を広げて私達を歓迎してくれました。交流は今後も続けて行きたいと思っています。

今回の旅行で釜山と慶州の案内をお願いした青年のお母さま手作りの韓国語で（もち米に棗・

栗・干し柿・松の実・しょうゆ・砂糖・ごま油を加え蒸した食べもの）の美味しさが忘れ難く、趙賢淑（チョ ヒョンシユク）先生 [横浜国大留学生・（シヨク ミヨン）淑明大 4 年生] に料理法を教えていただく予定です。月 2 回の例会は原則、第 1 土曜日、第 3 土曜日の午前中、学習センターで開催しています。韓国に少しでも興味をもたれましたら、ハングルを学び、楽しみ、私達と一緒にまた、まだまだ、知らざる韓国に行きましょう！

村田 カズ子

## 人間学研究会



平成 20 年度の人間学研究会の活動概要を紹介します。「歩きましょう」では、毎月 1 回以上の多数のウォーキング活動を実施しましたので、ここでは活動の詳細の紹介は割愛させていただきます。例会活動を中心に紹介しますが、特筆すべきは 9 月に放友会、うえるかむ Kanagawa、人間学研究会の 3 サークル共催で「有史以来の情報記録媒体の変遷と文明」というテーマで、講演会を開いたことでしょうか。我がサークルの会員以外の方も多数参加されました。

会員の修士論文発表では、「慶応 4 年 神戸事件を考える」と「井伊直弼の茶の湯—侘び茶への回帰」の 2 件があり、深い学識の一端を紹介していただきました。また「私の気に入った文平学作品の朗読—心に残った作品より」と題して文学作品の朗読もあり、このような読書の仕方もあることを学びました。さらには会員外の方から「人生の仕上げ—オーシャン・クルーズ」というお話もいただきました。その他「古代アラビア世界が残るイエメンの旅」、「放送大学と地域社会との連携についての提案」、「上水道

について]、「パチンコ考現学」など、幅広く勉強できました。

人間学研究会の機関誌「せせらぎ」19号を発行しました。去る3月8日には野外行事として「野草を食べる会」を開催し、会員以外の方も含めて20名が参加され、春の一日を楽しみました。このような行事を今年度も多数企画する計画です。例会や各種行事は公開を原則としていますので、まずは気軽に参加していただいて、多数の方が入会されることを期待しております。

安田 武夫

### 放送大学神奈川合唱団



神奈川合唱団と一緒に歌いませんか、仲間を募集しています。合唱指導 新井ゆう子先生（とてもやさしく指導して下さいます）

練習日 毎月 第1、第3水曜日

時間 PM 6時～8時30分

場所 大岡地区センター（学習センターの向い側、すぐ前です）

会費 1ヶ月 2,000円

最近の曲目「放大学歌」荒城の月、野に咲く花のように、赤いくつ、かあさんのふるさと、千の風になって、大きな古時計等。

発表の場 放送大学卒業式（毎年3月NHKホール）神奈川学習センターの入学式（4月と10月）その他放大的行事等です。

ただ今桜前線北上中です。開花宣言されてから13日もかかって満開を迎え日差しに後押しされて、おしゃれに咲き競っています。

私たちは月2回時間いっぱい歌い、センターを一步出れば三三五五駅迄の6～7分おしゃべり

のテータイムです。学校に関したこと、私的なこと、世間話と友だちサロンの出来上がりでこれも又楽しい一時です。

※いつでも見学できます。練習日に直接会場にお越し下さい。お待ちしております。一緒に歌いましょう。

家田 禮

### 資格取得研究会



私たちは、情報交換や学習・見学をとおしてキャリア・アップや就職・進学を目指す、神奈川学習センター唯一の特色ある会です。対象は、看護および福祉とその関連分野全般で、女性、高齢者、障害者と言った視点も持っています。異なった職場、違った資格を持った方同士の交流の場にもしてゆきたいと思えます。また、放送大での学習のすすめ方も話題にし、放送大の有効利用にも取り組みます。小さい会の利点で、直接に情報をお伝えできます。

今まで取り上げた話題として、「思春期保健相談士とは？」で、資格と看護の場の課題などを取り上げました。公開シンポジウム「日本版介護者支援策を考える」や「経験と理論のまじわるころ・・・暴力社会に終止符を！」を聴講しました。例会は、毎月一回、日曜または土曜に行っています。講演会、シンポジウム等への参加は不定期です。年会費：500円（平成21年度の1年間分）。会員連絡（郵送料）や、例会資料の印刷費用などに充てています。

宮崎 博之



## 放大かながわレク・サークル



放大かながわレク・サークル（通称レク・サークル）をご紹介します。

レク・サークルの主な活動は、ウォーキング、PC初心者訓練、自治体主催のウォークラリーへの参加です。さらに隔月に例会を持って会員相互の情報交換を行っております。

ウォーキングは毎月1回のペースで実施しており、多数の参加を得ております。（写真参照）ウォーキングは会員の歩行対応面なども考慮して、無理のない企画で実施しております。

PCの訓練については、会員が対象ですが、IT化時代への対応に遅れをとらないよう各自の能力に応じて、原則月2回のペースで個別対応を行っており、好評を得ております。状況に応じて日程の柔軟な対応も行っております。

PC訓練は、会員全員がEメール発信ができるようになることが目標です。さらには各種HPへのアクセスなどによる情報の入手などができるようになることです。

ご入会を検討される方は、一度下記の電話番号かメールアドレスにアクセスしてみてください。連絡をお待ちしております。

佐々木 恭夫

このサークル紹介記事は、「UA 神奈川学習センターはるだより（2009年）を基に各サークルに見直して頂き転載したものです。

## 中国語学習会



中国語学習会は結成12年目を迎えます。現在24名の会員が月2回（第1日曜日、第3日曜日）、熱心に中国語の学習に励んでいます。スタート時からネイティブの中国人講師を迎え、基礎学習から文化、歴史なども取り入れて学習を進めています。午前中は中級クラスで、前半は中国語のフリートーキング、後半は中国の大学が外人留学生用に編集した会話教材を使った学習、午後は初級クラスで、会話の基礎となる発音と、放送大学の中国語Ⅰのテキストを使った学習です。どのクラスにも自由に参加できるため、初級クラスの方が中級クラスでヒヤリングの勉強したり、中級クラスの方が初級クラスで発音の基礎を復習など学習方法は多彩です。メンバーは短期語学留学に挑戦した人や、つい最近では、メンバーの日本語講師として北京に滞在中の方を頼って、語学ツアーにチャレンジと意欲あふれる会員がいっぱいです。一度、気楽に教室をご見学ください。

万場 由美子

## 放送大学ダンスサークル



放送大学ダンスサークルです。ダンスにも色々ありますが私達がやっているのは社交ダンスです。フォークダンスやハワイアンダンスと違ってパートナーと一緒に踊ることでイメージ

的に今いち良い印象を持って貰えませんが社交ダンスは健全で楽しく心身共に青春を甦えらせるスポーツなのです。年齢を重ねてもリズムに乗って自然に体が動くようになるのです。ワルツやタンゴはしなやかにサンバ・チャチャ・ルンバのラテンは若々しく早い動きでスイングして踊ればストレスやメタボ解消に最適です。初心者にはみんなと一緒に出来るスクエアルンバやマンボ等で賑やかにレッスンしています。老若男女問わず健康に良い社交ダンスを一緒にしませんか、たまにはパーティや旅行も和気あいあいやっています。毎月第二、第四火曜日午後2時から4時までレッスンしていますから一度覗いて見て下さい。

村上 信子

## 中国語コミュニケーション同好会

中国語コミュニケーション同好会。創立は2008年です。その前身は本当の同好会でした。ですから、サークルとしての歴史は浅いのです。活動は月2回、第二、第四土曜日、13時から15時までの2時間、神奈川学習センターで定期的に学習会を行っています。面接授業等で講義室が取れないときは、大岡地区センターを利用しています。講師はもちろん中国人の方です。優しく親切に楽しく教えていただいています。卒業には外国語の単位は欠かせないと思います。中国語は、発音は難しいかもしれませんが、それさえ克服すれば学びやすい言語だと思います。例えば「参加」や「交通」、「通知」等は、発音は違いますが、意味は日本語と同じです。外国語の学習は競い合う、あるいは教え合う仲間がいれば長続きし取得しやすいと思います。ぜひ、入学を機会に新しいことに挑戦してみてください。

梅原 操



フェスタ 学歌斉唱



フェスタ 交流会開会宣言



フェスタ 三宅先生



フェスタ 同窓会連合会招待者と共に

## フェスタヨコハマ 同窓会の活躍

### 第24回フェスタ・ヨコハマ 記念講演会報告

木下 義則



三宅先生講演

平成22年9月5日に恒例のフェスタ・ヨコハマが盛大に挙行されました。当日は10時から記念講演会が催され、今回の講師は横浜国立大学教授の三宅晶子先生です。演題は「幽玄の系譜～和歌に始まり、能を経て美術工芸品にいたる日本の美意識～」という内容です。

「余白の美」という日本文化の特色であり、独特の美意識を醸し出す表現法を長谷川等伯作の『松林図屏風』、雪舟作の『秋冬山水図』や狩野永徳作の『洛中洛外図屏風』等日本特有の絵画と中国で描かれた『故蘇繁華図』や『清明上河図』等の映像資料で表現法の違いを確認しながら講演は始まり、春の霞と秋の霧あるいは雲の表現法について、いにしえから日本人は識別できる鑑賞眼を持っており、『松林図屏風』に描かれている空間・余白は秋の霧を表象しているということを大方の人が解釈でき、これが永い間日本人のDNAに刻まれた美意識ではないでしょうか。

続いて本講演のメインテーマである「幽玄」というキーワードの辞書的解釈、歌道における壬生忠岑・藤原俊成・正徹・心敬等の伝書にもとづく解釈、更には世阿弥能楽論の解釈、これらを具体的な例示をしながら解説していただきました。和歌に始まった「幽玄」という美意識をいろいろな言葉で言い表すことで古人はそれぞれ後世の人々に伝承しようとした。「余情」「艶」「優」等がそれであり、『正徹物語』に例を

取れば、心に明らかに思ひ分くべき事にあらぬにや。たゞ飄白としたる体と申すべきか。南殿の花の盛りに咲き乱れたるを、絹袴きたる女房四、五人詠めたらん風情を幽玄体といふべきか。

紫宸殿に桜が満開で、それを正装した美しい女房が四、五人眺めているような風情を幽玄体というべきだろうか。という想像しただけで贅沢で優雅な情景が表現されています。

最後に幽玄を舞台上で表象した能《井筒》、能《道成寺》と能の《道成寺》を元とした歌舞伎舞踊《京鹿子娘道成寺》ビデオを鑑賞しました。満員となった会場の参加者は古き良き日本の文化、美意識に共感を深めた大変興味深い講演会でした。

### 『お抹茶コーナー』は大好評

大木 陸夫



お茶席

9月4、5日はフェスタ・ヨコハマの日でした。神奈川同窓会は、「フォスタープランのビデオ上映」、「お抹茶コーナー」、「ビンゴ大会」を担当致しました。いずれも好評を得てフェスタ・ヨコハマを盛り上げました。

「お抹茶コーナー」の報告をいたします。「お抹茶コーナー」は今回で2回目、計画を進めるにあたって、昨年の感想文の中に「先生のお点前を見たかった」、「飲み方を教えて欲しかった」などのご意見がありました。そこで、今回はその点を考慮して行うことにしまして、家田さんを中心に準備を進めました。亭主をしてくださった家田さんには、お客様の面前でお点前をして頂き、半東【はんとう】(茶道用語、亭主のサポート役)さんが、お茶の頂き方を簡単に説明するなど、未経験の方でも安心して飲んで頂き、楽しんで頂くことができるようにしまし

た。

また、一回の茶席で13人のお客さんにお茶を点てるためには、どうしても水屋（茶の湯の用意をする所）での陰点てが必要です。簡単な衝立の裏での作業は、茶席全体の静寂な雰囲気壊さないように、音を立てない、私語は厳禁とするなどして任された役割をこなしてまいりました。おかげさまで二日間で、抽選で選ばれた方や来賓の方々など、100名を超えるお客様にお抹茶の味と、茶席の雰囲気を味わって頂き、皆様から好評を頂けたと思っております。以下にお客様から寄せられた、一言感想文の一部をご紹介します。

- ①「わかりやすい作法の説明とおいしいお茶をありがとうございました。このような機会を作っていただきありがとうございます」  
「静寂な雰囲気の中お手前を拝見美しく、久しぶりのお抹茶をいただきました」
- ②「初めて茶道を体験させていただきました。菓子も茶も一層おいしく感じられるひとときでした。一つ一つの動作をもっと知りたいと思い、個人的にも習ってみたいと思うくらいよかったです」
- ③「先生のお振舞いがとても素敵でした」  
「きっちりとお作法どおりで感心いたしました。特に花がステキで、これだけ今日楽しめられたのは大変だったろうと思いました。ありがとうございました」
- ④「お軸とお花で教室が一変してお茶室の雰囲気に——さすがと思いました。感謝をもって」
- ⑤「和の心をお茶席を通して感じる事が出来ました」
- ⑥「お祭りに、文化的伝統の香りを添えられ、けっこうでした」

## ビンゴ

志賀 健三



ビンゴ大会会場には景品交換の行列を整える立派な柵も作ってくれていた。

金田さん、島田さん、が手伝ってくれる。抹茶コーナーより市川さん山田さんが応援。間もなく渡辺さんも駆けつけてくれるだろう。今年とはとにかく参加者が多い、200人位だろうか。午後3時5分開始。瞬く間に1～4等が決まった。1～4等は包装しているの中身は見えない。当選者がそれぞれ包装を解いて中身の公開を行った。

今年は抹茶コーナーの形が変わり大勢の人手を必要とする為、ビンゴに割り当てる人手がなかった。仕方がないので抹茶担当などを含め5名の方に2ヵ月前から手伝ってもらい景品を用意した。皆さん吟味しながら景品を選んだらしくバラエティに富んでいる・・・  
景品は公表の50本のほか予備や追加分をふくめ80本余、全て出品。

終了間際に予備景品の残りの処分について口が滑って、收拾がつかなくなりそうになったが、島田さんのリードでなんとか収まった。3時40分終了。ビンゴ手伝いの皆さんは、掛け持ちで慌ただしく大忙しでしたね。お疲れ様でした。  
(Wさん素敵なお景品の差し入れ有り難うございました)



## 神奈川学習センター の近況

### 神奈川学習センターの施設整備 (環境整備)

○トイレ改修工事

工事期間：2008 (H20) 年8月下旬～2008 (H20) 年10月下旬

主な内容：多目的トイレ増設(2階)、和式から洋式トイレに改修、温水洗浄・暖房便座に改修

○同窓会・学生団体等改修工事

工事期間：2008 (H20) 年12月中旬～2008 (H20) 年12月下旬

主な内容：天井張替、照明器具更新、エアコン更新、机・椅子等設置

○外壁改修工事

工事期間：2009 (H21) 年4月中旬～2009 (H21) 年8月下旬

主な内容：外壁改修、屋上防水改修、建物の外周塀塗装

○エレベーター改修工事

工事期間：2009 (H21) 年8月上旬～2009 (H21) 年9月下旬

主な内容：エレベーター更新(バリアフリー対応)

○内装改修工事【第Ⅰ期】

工事期間：2010 (H22) 年2月初旬～2010 (H22) 年3月下旬

主な内容：講義室・学生相談室・保健室(天井張替、壁クロス張り、床タイルカーペット張り、照明器具更新、換気設備更新)

廊下・ロビーの照明(天井張替、壁クロス張り、照明器具更新)

敷地内舗装、駐車場、点字ブロック、フェンス塗装、中庭インターロッキング敷きほか

○内装改修工事【第Ⅱ期】H22年度(予定)

主な内容：1階の廊下、1階エントランス、コピー室、湯沸室、階段室、教員研究室

外構工事(外灯)ほか

○内装改修工事【第Ⅲ期】H23年度(予定)

主な内容：実験室(物理、化学)、会議室、事務室ほか

### 2009 (H21) 年度以降の学部 及び大学院の再編について

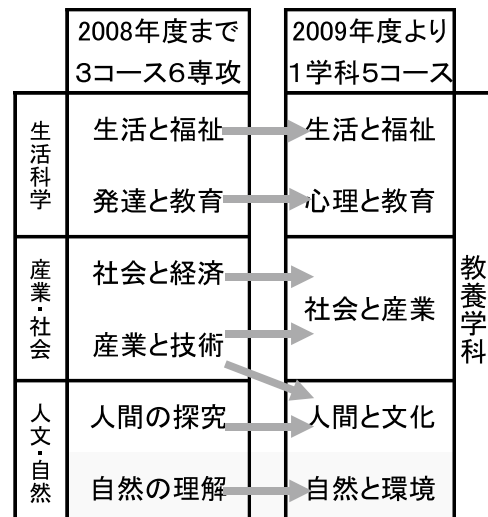
1 学部の再編

① 再編の概要

- ・すべての人々に対して開かれた生涯学習のための大学という本学の基本理念に即し、教育研究の体系として多様性及び学際性を備えるようにするため、これまでの3コース(3学科に相当)6専攻を1学科5コースに再編。
- ・新しい5つのコースは、臨床心理学プログラムを除く大学院の5プログラムに対応し、大学院プログラムとの整合性を高めている。
- ・教育課程については、学問の基本体系を尊重しながら、諸学問の根幹となる教養を平易な形で提供するとともに、総合的な見地から多様な学習ができるよう、科目区分を2区分(共通科目、専門科目)から4区分(基礎科目、共通科目、専門科目、総合科目)に改善。

② 再編の時期

- ・2009 (H21) 年4月より





## 同窓会二十年の歩み（年表）

年	月日	神奈川同窓会の歩み	会員数
1983(昭和58)年 1985(昭和60)年 1989(平成元年)		放送大学設立 授業開始(放送大学開学)  教養学部第1期生卒業(同年同窓会設立)	
1990(平成2)年	6.30 7.08 10.07 10.20 11.11 12.16 12.19	同窓会神奈川学習センター支部設立準備委員会発足 (別所委員長、嶺田・加藤副委員長) 第二回設立準備委員会 規約・活動・支部総会準備委員会発足 第六回設立準備委員会 会則等まとめ 神奈川学習センター支部設立総会開催 初代会長 別所敏明 第一回役員会 役員業務分担および役員会運営について 第二回役員会 支部活動施策についておよび賀詞交歓会参加の件 支部会報「創刊号」発行	119
1991(平成3)年	1.05 2.17 4.13 5.12 6.16 7.13 7.30 12.01	賀詞交歓会参加 第三回役員会 役員の出費の取り扱い 社会貢献への具体的活動および会報のネーミング募集について 第五回役員会 本部役員を選任・在学生サークルとの連絡会および 社会貢献のテーマについて 第六回役員会 本部総会報告、第二回支部総会について 第二回支部総会開催(別所会長) 講演会 放送大学講師 仙洞田潤子氏「ゴルバチョフ大統領の来日以降 の日ソ関係」 懇親会 第八回役員会 支部会報のタイトルは『波濤』に決定 会報『波濤』第2号発行 第十回役員会 F・P(フォスター・プラン)実行委員会発足 フォスター・プラン活動の資金確保は、寄付金および支部会計からの支出 等による。男女各一名の援助を当面の目標とする。	160
1992(平成4)年	1.12 3.10 3.01 5.02 6.14 6.25 ~31 9.01 9.09 11.01	大学関係者・在学生による「'92ニューイヤーパーティー」(第一講義室) 会報『波濤』第3号発行 F・P 一人目のフォスターチャイルド グアテマラのピラールちゃんの援助 を開始 F・P (財)F・P協会による全国主要新聞掲載の広告に、当支部の活動を紹介 第三回支部総会開催 役員改選第二代会長 加藤あいし 平成四年度よりフォスター・プランを別会計にする 講演会 (財)F・P協会 後藤みどり氏「国際貢献について」 大学の窓でフォスター・プラン支援活動について放送  F・P タイのソムチャイ君援助開始 会報『波濤』第4号発行 講演座談会 相模福祉村理事長 赤間一之氏「福祉と行政について」	221
1993(平成5年)	2.07 2.14 2.26 5.30 6.13 7.04 8.28 11.14	支部連絡協議会準備委員会(東京第二支部主催)出席 第二十回役員会 会報『波濤』第5号発行 第四回支部総会開催(加藤会長) 講演会 千葉工業大学 清水義夫先生「思考は柔軟ですかー私の言っ ていることは嘘である」 懇親会 第二十三回役員会 支部運営費の件・第一回支部連絡協議会参加 第一回支部連絡協議会(東京第一支部主催)出席 会報『波濤』第6号発行 講演会 坂井素思助教授「イギリス経済の文明的視点」	279

年	月日	神奈川同窓会の歩み	会員数	
	12.23	第二回支部連絡協議会(東京第二支部主催)出席		
1994(平成6年)	2.27	第二十七回役員会 支部運営費の収支現状から活動の縮小を検討・本部へ給付金の増額を要請	341	
	3.01	F・P ケニヤのルーシーちゃん援助開始		
	3.09	会報『波濤』第7号発行		
	6.05	第五回支部総会開催 役員改選 第三代会長 稲葉恒夫 講演会 神奈川学習センター所長 浜口充子教授 「中国における『公平』について」		
	6.26	第三十回役員会 第三回支部連絡協議会は神奈川支部主催と決定		
	8.25	会報『波濤』第8号発行		
	9.03	第三回支部連絡協議会(神奈川支部主催) 講演会およびF・P活動の紹介 F・P協会 煙草屋事務次長		
	12.04	第二十三回役員会 「支部運営に関するアンケート調査」実施のための小委員会発足・アンケート調査項目の検討等		
1995(平成7年)	2.05	第三十四回役員会 アンケート調査の結果によって想定される支部運営等について		462
	2.25	会報『波濤』第9号発行		
	3.18	第四回支部連絡協議会(埼玉支部主催) 第三十五回役員会 「支部運営に関するアンケート」の調査報告・支部会費等に関する会則改訂の件		
	6.01	F・P グアテマラのピラルちゃん小学校卒業の為、援助辞退		
	6.11	第六回支部総会(稲葉会長) 支部年会費(一千円)制導入を承認 講演会 S・R・L 山下友一氏「あなたの体からSOS(健康診断の数値についての知識)」		
	7.09	第三十七回役員会 支部年会費納入方法・記念誌発行の件		
	7.09	第五回支部連絡協議会(千葉支部主催)出席		
	8.28	会報『波濤』第10号発行		
	10.29	「浜口先生を囲み組織について考える会」(本部主催)出席		
	11.01	F・P グアテマラのラモス君援助開始		
	11.19	F・P F・P活動についての勉強会 講師 F・P協会 丸山和子氏		
	11.26	第三十九回役員会 記念誌発行委員会報告		
1996(平成8年)	3.01	会報『波濤』11号発行	571	
	5.01	F・P グアテマラのラモス君援助圏外へ移住の為援助終了		
	5.30	神奈川学習センター支部創立六周年記念誌『波濤特集号』発行		
	6.30	第七回支部総会開催 役員改選 第四代会長 押山睦生 講演会 同窓会事務局長 五十嵐一成氏「インターネットについて」		
	9.01	会報『波濤』12号発行		
	9.01	F・P グアテマラのエリザンドロ君援助開始		
	9.28	九月度卒業生へ同窓会会員のお誘い		
	10.19	講演会 本部初代会長 藤田茂光氏「自己と出会うまでの長い道」		
	12.01	F・P バングラディシユのバロ・バラちゃん援助開始		
1997(平成9年)	1.19	臨時役員会 同窓会組織改編に関する神奈川支部の意見を纏める	632	
	3.01	会報『波濤』13号発行		
	3.14	第一回学習センター事務職員との懇談会開催		
	5.25	第八回支部総会開催(押山会長) 講演会 中島保寿牧師 「心のケアについて」		
	9.01	会報『波濤』14号発行		
	9.21	講演会 F・P教会 伊勢崎賢治氏 「現地から見たF・P制度」		
	9.28	九月度卒業生へ同窓会会員のお誘い		
	10.01	F・P グアテマラのエリザンドロ君援助年齢を過ぎた為終了		
1998(平成10年)	1.31	第56回役員会 同窓会組織改編に関する神奈川支部の意見を纏める		

年	月日	神奈川同窓会の歩み	会員数
	3.01 3.08 5.24  6.01 6.28 9.01 9.06 9.26	会報『波濤』第15号発行 第57回役員会 第九回総会開催 役員選出 第五代会長 藤井 輝 同窓会組織改編により各支部が独立 「放送大学神奈川学習センター同窓会」に改名 会則の新設 年会費納入者を会員の条件の一つとする 講演会 藤井洋子助教授 「楽しみながら英語を学ぶ方法」 F・P エクアドルのレオニダス君援助開始 支援対象者四名に増員 F・P エルニーニョ災害緊急対策特別援助 会報『波濤』第16号発行 第61回役員会 パソコン購入の検討 九月度卒業式パーティーで祝辞 会員募集 (入会金5000円・年会費1000円)	645
1999(平成11)年	2.28 3.01 3.14 5.16  9.01 9.19 9.25 11.14	第64回役員会 同窓会内規等見直し 会報『波濤』17号発行 講演会 F・P協会 松本紀子氏、広本正郁子氏 第十回総会 (藤井会長) 講演会 放送大学 笠原 潔助教授「洋楽移入の入り口ー横浜ー」 会報『波濤』18号発行 第67回役員会 十周年記念誌編集委員会発足 九月度卒業式パーティーで祝辞 会員募集 第68回役員会 十周年記念行事等の検討	671
2000(平成12)年	2.11 3.01 5.14  6.04 9月	F・P タイのソムチャイ君訪問 会報『波濤』19号発行 第11回総会 役員改選 第六代会長 伊東廣明 講演会 神奈川学習センター所長 新飯田 宏教授 「私の見たアメリカン・ライフ」 創立十周年記念行事 「鎌倉散策・花巡り」 F・P 支援チャイルド5名に増員	749
2001(平成13)年	4月 4.15 5.13  8.26 9.09 9.30  11.11  11.30 12.09	大学院設置 連合会参画 第四回総会および連合会開催 第12回通常総会 講演会 演題「ゲーテの業績について」 講師:放送大学助教授 隈部正博先生 第15回フェスタ・ヨコハマへの協力 会報『波濤』第22号の発行 会員募集 神奈川学習センター卒業式にて 神奈川学習センター卒業祝賀会への協力 同窓生による体験発表 ・佐藤 美津留氏「晩学で私が出たもの」 ・田沢 誠一氏「皆既日食で綴る太陽活動一周期」 同窓会連合会参画 13年度第2回連合会開催 人間学研究会主催講演会への協力	760
2002(平成14)年	1.20 2.14 2.17 3.10 3.17 3.25 4.14 5.12  8.25 9.22	1/20～2/24学習センター談話室にチャイルド写真・手紙等パネル展示 映画鑑賞とお話 「初恋のきた道」 西浦 久安晏氏 同窓会連合会参画 13年度第3回連合会開催 会報『波濤』第23号の発行 平成13年度卒業パーティ開催 F・Pタイのソムチャイ君援助圏外転出のため援助終了 同窓会連合会参画 第5回総会および連合会開催 第13回通常総会 会長 五十嵐一成氏 講演会 演題「産業空洞化と闘う中小企業」 講師:神奈川学習センター長 神代 和欣教授 第16回フェスタ・ヨコハマへの共催 会報『波濤』第24号の発行	761

年	月日	神奈川同窓会の歩み	会員数
	10.06 11.10 12.02	会員募集 神奈川学習センター卒業式会場にて 神奈川学習センター卒業祝賀会への共催 同窓生による体験発表 ・片岡 久雄氏「第一次南極観測隊の輸送業務について」 ・坪井 英子氏「ご自分の死について考えたことありますか？」 同窓会連合会参画 14年度第2回連合会開催	
2003(平成15)年	1月 2.23 3.16 5.14 5.18 8.24 9.07 9.15 10.05 10.25 11.16 12.02	F・P エクアドルのレオニダス君が生活環境向上により終了 映画鑑賞とお話「グラディエータ」 西浦 久晏氏 会員募集 TokyoBayN,K,Hallにて 14年度第3回連合会開催 14年度卒業パーティ開催 第14回通常総会 (五十嵐会長) 講演会 演題「思春期のつまずきをめぐって」 講師:東洋英和女子学院大学・人間科・矢吹 和美教授 同窓会連合会参画 第6回総会および連合会開催 第17回フェスタ・ヨコハマへの共催 会報「波濤」第26号発行 F・P パロ・バラちゃんに代わりバングラディシュのピュチュルちゃんへ 会員募集 神奈川学習センター卒業式会場にて 神奈川学習センター卒業祝賀会への共催 同窓会連合会参画 臨時役員会開催 勉強会 藤井 輝氏「ペリー来航と開国前後の日本について」 同窓会連合会参画 15年度第2回連合会開催 放送大学と同窓会連合会との懇談	835
2004(平成16)年	2.15 2.28 3.05 3.14 3.31 4.04 5.16 5.22 6.06 6.19 6.20 8.29 9.01 9.05 10.03 11.14 12.10	映画鑑賞とお話「活きる」 西浦 久晏氏 講演会実行委員会への参画(神代所長講演) F・Pピュチュルちゃん援助辞退バングラディシュのロ・ジーナちゃんへ 会員募集 TokyoBayN,K,Hallにて 会報「波濤」第27号発行 埼玉同窓会と神奈川同窓会との交流会 第15回通常総会「放送大学神奈川同窓会」へ名称変更 (五十嵐会長) 講演会 演題「宇宙のロマン・最近の天文学のトピックスと星空への誘い」 同窓会連合会参画 臨時役員会 F・Pルーシーちゃん援助終了バングラディシュのスバシュ君援助 同窓会連合会参画 第7回総会・16年度第1回連合会開催 講演会 演題「ブロードバンドとユビキタス時代を迎えて」 フェスタ・ヨコハマへの共催 会報「波濤」第28号発行 同窓会連合会参画 同窓会設立15周年記念座談会 会員募集 神奈川学習センター卒業式会場にて 神奈川学習センター卒業祝賀会への共催 講演会 演題「禅と心」 講師:藤田 重光氏 同窓会連合会参画 放送大学との懇談会・16年度第2回連合会開催	830
2005(平成17)年	2.12 2.13 2.27 3.12 4.01 5.08 5.15 5.21 8.28	同窓会設立15周年記念フォーラムへの共催 ・公開講演会「青少年の非行と犯罪について」:加藤あいし氏 ・パネルディスカッション「放送大学の明日を語る」 パネリスト:中川 英子氏、池永 康子氏、古野 高根氏、加藤あいし氏 同窓会連合会参画 16年度第3回連合会開催 映画鑑賞会とお話「シカゴ」 西浦 久晏氏 会員募集 TokyoBayN,K,Hallにて 会報「波濤」第29号発行 F・P協会主催バングラディシュ・デーに参加(現地活動報告)を聞く 第16回通常総会 講演会 演題「自活できる能力を保持するために」 講師:放送大学助教授 医学博士 白井 永男先生 同窓会連合会参画 第8回同窓会連合会総会・17年度第1回連合会 フェスタ・ヨコハマの共催	851

年	月日	神奈川同窓会の歩み	会員数
	9.01 9.23 ~24 10.02 11.20	公開講演会 演題「徒然草……現代に生きる兼好」 講師:放送大学助教授 島内 裕子先生 会報『波濤』第30号発行 同窓会連合会参画 第1回全国同窓会会長懇談会 ・9.23 演題「放送大学の明日へ向けての同窓会の役割」 ・9.24 議題 1.同窓会の諸問題 2.設立運営に関して 会員募集 神奈川学習センター卒業式会場にて 神奈川学習センター卒業祝賀会への共催 同窓会連合会参画 17年度第2回連合会	
2006(平成18)年	2.05 2.11 2.13 2.19 3.11 4.01 5.14 6.03 8.27 9.01 10.01 12.01	公開講演会 演題「産業における競争と共存」 講師:神奈川学習センター所長 森谷 正規先生 同窓会連合会参画 17年度第2回連合会 2/13~28 F・P 学習センター談話室にチャイルド写真・手紙等資料展示 公開講演会 演題「物忘れの心理」 講師:放送大学助教授 星 薫先生 会員募集 放送大学卒業祝賀会 幕張メッセにて 同窓会連合会 会報『波濤』第31号発行 第17回通常総会 第8代会長 笠井政記 講演会 演題「なぜ日本人は珈琲を好きになったのか?」 講師:放送大学教授 坂井 素思先生 同窓会連合会参画 第9回同窓会連合会総会 フェスタ・ヨコハマの共催 公開講演会 演題「今我々のいるところ」 講師:放送大学学長 丹保 憲仁先生 会報『波濤』第32号発行 会員募集 神奈川学習センター卒業式会場にて 神奈川学習センター卒業祝賀会への共催 第1回全国同窓会会長懇談会	867
2007(平成19)年	2.18 2.16 2.25 3.24 4.01 6.03 6.24 8.26 8.26 10.07 11.11	映画鑑賞とお話 お話の演題「戦後ヨーロッパ映画の輝き」 講師:西浦 久晏氏 映画「ひまわり」1970年イタリア映画 役員用ネット「yakuin-net」開設 フェスタ・ヨコハマ実行委員会と共催 公開講演会 演題「科学的な見方・考え方」講師:神奈川学習センター所長 濱田 嘉昭先生 会員募集 「高輪プリンスホテル」放送大学卒業祝賀会会場にて 放送大学卒業祝賀会 同窓会連合会主催 品川高輪プリンスホテル 会報『波濤』第33号発行 第18回通常総会 講演会:演題「今後の放送大学について」 講師:放送大学神奈川学習センター所長 濱田嘉昭先生 同窓会連合会参画 第10回同窓会連合会総会 (笠井会長 連合会副会長に就任) F・P協会主催トークイベント&写真展参加(横浜市開港記念会館) フェスタ・ヨコハマ実行委員会と共催 公開講演会 演題:「マスコミの裏側」講師:放送大学付属図書館長 柏倉泰雄先生 F・P協会主催トークイベント&写真展参加(横浜市開港記念会館) F・Pフェスタ・ヨコハマでビデオ上映、パネル展示 会員募集 神奈川学習センター卒業式会場にて 神奈川学習センター卒業祝賀会 神奈川学習センターとの共催 役員用ネット 「hato-net」開設	836
2008(平成20)年	1.01 1.23 2.16 2.17 2.17	ホームページ正式開設 1/23~2/18 F・P談話室にチャイルドの写真・手紙等資料展示 会員募集 「ホテルニューオータニ」放送大学卒業祝賀会会場にて 放送大学卒業祝賀会・謝恩パーティ 同窓会連合会主催 F・P 講演会開催 F・P協会員 大橋氏、小峰氏 映画鑑賞会とお話 演題:「映画に観る多彩な人間模様」 講師:西浦久晏氏 上映映画「LOVERS」中国映画	



年	月日	神奈川同窓会の歩み	会員数
	4.01 5.31 6.07 6.29 7.14 8.24 9.08 10.01 10.05	会報『波濤』第35号発行 平成20年度通常総会開催(笠井会長が連合会長に就任) 第19回通常総会(笠井会長) F・P 社会貢献活動とするため会則第5条の六改定 講演会 演題「日本人はいかに情報を受け入れてきたか」 講師:放送大学助教授 坂井素思 先生 社会貢献 F・P 横浜開港記念会館で開催されたプラン・ジャパンに参加 社会貢献 F・P パキスタンのフェイザン君が登録終了となる フェスタ・ヨコハマの共催 フォスタープラン ビデオ上映 記念講演会 演題:「ベトナム・フランス・ヨコハマ」～多文化共生～ 講師:放送大学 工藤庸子 先生、放送大学講師 小川有子先生 交流会:ビンゴ大会(同窓会主催) 社会貢献 F・P インドネシアのリファルダス・ムベル君新チャイルドに 会報『波濤』第36号発行 神奈川同窓会卒業祝賀会(神奈川学習センターと共催)	847
2009(平成21年)	2.28 2.28 3.28 4.01 6.13 6月 7月 8月 8.30 10.01 10.11 11.04	社会貢献 F・P 講演会 F・P協会員 大橋氏、小峰氏による 映画鑑賞とお話 演題:「ヨーロッパの芸術」 講師:西浦久晏氏 上映映画:「真珠の耳飾の少女」 放送大学卒業祝賀会 同窓会連合会主催(神奈川同窓会担当) 品川新高輪プリンスホテル 会報『波濤』第37号発行 第20回通常総会 会長 笠井政記 講演会 演題「裁判員制度」 社会貢献 F・P 中国のジュンメイ・ドアンさん 18歳に達した為支援終了 社会貢献 F・P協会より10年を超える当同窓会の支援に感謝状を受ける 社会貢献 F・P 西アフリカ・マリ国のマドウ・ドニコ・シセ君 支援開始 フェスタ・ヨコハマ参画 記念講演 演題:「今後の日本経済・財政の行方」 講師 石 弘光 放送大学学長 社会貢献 F・P フェスタ・ヨコハマ会場でネパールビデオ上映・パネル展示 会報『波濤』第38号発行 神奈川同窓会卒業祝賀会(神奈川学習センターと共催) 社会貢献 F・P 談話室にチャイルドの写真や手紙等資料展示	529
2010(平成22年)	2.28 3月 3.27 4月 5月 5.16 6.01 9.05	講演会 演題:「学問のススメ」 講師:神奈川学習センター所長 渡邊 慎介先生 映画鑑賞とお話 演題「映像文化(映画)と文字文化(文学)」 講師:西浦久晏氏 上映映画「日の名残り」 イギリス映画 社会貢献 F・P インドのラビ・ナリゲ君コミュニティ環境向上により援助終了 放送大学卒業祝賀会 同窓会連合会主催 ホテル ニューオータニ 社会貢献 F・P グアテマラのジャクリーンカロレイスちゃん支援開始 社会貢献 F・P 談話室掲示板に新チャイルドの写真とプロフィールを紹介 第21回通常総会 第9代会長 木村勝紀 講演会 演題:「なまはげ伝道師」 講師 小野鐵雄氏 会報『波濤』第39号発行 フェスタ・ヨコハマ参画 記念講演 演題:「幽玄の系譜」～和歌に始まり、能を経て美術工芸品 にいたる日本の美意識～ 講師 横浜国立大学教授 三宅晶子 先生	553

凡例 年号の表記:西暦・和暦を併記した。  
数字の表記:アラビア数字(算用数字)、漢数字の別は「波濤」表記を準用した。  
社会 貢献:フォスター・プラン(F・P)については、2008年第19回総会より、  
社会貢献を冠として表記した。

## 役員一覧

設立準備委員会	
	平成2年6月～ 2年10月
委員長	§ 別所敏明
副委員長	嶺田勝典 加藤あいし
総務委員会	大貫京子 五十嵐一成 片山洋子 加藤あいし 大塚品子 § 杉本志津子
規約委員会	桂馬正美 須藤威夫 奥村高志 鈴木照子
活動予算委員会	小山佐枝子 桜田幸子 龍造寺寛 § 小山義弘
支部総会準備委員会	稲葉恒夫 村上美砂子 松岡和正 嶺田勝典 § 中川英子

支部役員			
	第1期 平成2年10月 ～4年3月	第2期 平成4年4月～ 6年3月	第3期 平成6年4月～ 8年3月
会 長	§ 別所敏明	加藤あいし	稲葉恒夫
副会長	嶺田勝典 加藤あいし	近藤武志 § 稲葉恒夫	§ 竜造寺寛 押山睦生
事務局長	五十嵐一成	五十嵐一成	五十嵐一成
副事務局長	§ 村上美砂子	片山洋子	§ 星礼子
事務局			
会 計	龍造寺寛 小山佐枝子	§ 小山佐枝子 坂本春江	坂本春江 池永康子
総務(規約)	大貫京子 片山洋子 須藤威夫 § 藤田茂光 松岡和正 § 小山義広 § 鈴木照子 桜田幸子	岩間吉男 大塚徳江 大貫京子 倉田スヨ子 松岡和正 南 宏	§ 松岡和正 森西節子 森脇早代子 桑島久乃 田澤誠一 岩間吉男
規 約			
企 画	稲葉恒夫 小川みのり	小川みのり 甕 潤 § 龍造寺寛	上原哲雄 越川敏子 § 糸井アサノ
監 事	奥村高志 市村恭子	奥村高志 那須美津子	那須美津子 南 宏
選挙管理委員会		池田美智子 別所敏明 宗行紀子	加藤あいし 近藤武志 片山洋子
フォスター・プラン実行委員会	別所敏明  藤田茂光 稲葉恒夫 片山洋子 五十嵐一成 小川みのり 村上美砂子	加藤あいし  別所敏明 藤田茂光 稲葉恒夫 片山洋子 五十嵐一成 小川みのり 村上美砂子	稲葉恒夫  別所敏明 加藤あいし 片山洋子 五十嵐一成 松岡和正 小川みのり

§は、本部役員兼務。 〓は、連合会役員兼務。  
出典：役員名簿は「総会議案書」による。

## 役員一覧

支部役員		同窓会役員	
	第4期 平成8年4月～ 10年3月	第5期 平成10年4月 ～12年3月	第6期 平成12年4月 ～14年3月
会 長	押山睦生	㊦藤井輝	㊦伊東廣明
副会長	池永康子 藤井輝	森西節子 伊東廣明	西浦久晏 小山佐枝子
事務局長	田澤誠一	田澤誠一	飯塚佳子
副事務局長	星礼子		
事務局		星礼子 和田正純	片岡久雄 元山由喜夫
会 計	森木洋子 久保洋子	久保洋子 飯塚佳子	大泉トク 佐藤美津子
総務（規約）	森西節子 伊東廣明 上原哲雄 片野克己 小山佐枝子 衛藤裕美	伊東廣明 上原哲雄 片野克己 小山佐枝子 金子和子	小山佐枝子 片野克己 金子和子
規 約			
企 画	藤井輝 越川敏子 佐藤芙美子 §西川隆	森西節子 佐々木順子 出口仁美 西浦久晏	西浦久晏 佐々木順子 出口仁美
監 事	林カヨ 和田正純	越川敏子 龍造寺寛	㊦藤井輝 龍造寺寛
フォスター・ プラン実行 委員会	押山睦生	藤井輝	伊東廣明
	稲葉恒夫	稲葉恒夫	藤井輝
	加藤あいし	加藤あいし	稲葉恒夫
	片山洋子	片山洋子	加藤あいし
	五十嵐一成	五十嵐一成	片山洋子
	松岡和正	松岡和正	五十嵐一成
	佃幸子	佃幸子	松岡和正
	田澤誠一	森西節子	佃幸子
	星礼子	田澤誠一	森西節子
	星礼子	田澤誠一	
	伊東廣明	星礼子	

同窓会役員	
	第7期 平成14年4月 ～16年3月
会 長	五十嵐一成
副会長	片岡久雄 田澤誠一
事務局長	片野克己
理 事	大泉トク 佐藤美津留 元山由喜夫 和合明 福島三郎 伊藤泰史 佐々木順子 大花幸子 笠井政記 竹中史郎 尾澤昌子
監 事	龍造寺寛 松岡和正
フォスター・ プラン実行 委員会	五十嵐一成 伊東廣明 田澤誠一 藤井輝 星礼子 松岡和正 森西節子

§は、本部役員兼務。 ㊦は、連合会役員兼務。  
出典：役員名簿は「総会議案書」による。

## 役員一覧

同窓会役員				
	第8期 平成16年4月 ～18年3月	第9期 平成18年4月 ～20年3月	第10期 平成20年4月 ～22年3月	第11期 平成22年4月 ～年月
会 長	五十嵐一成	笠井政記	㊦笠井政記	㊦木村勝紀
副会長	片岡久雄 竹中司朗	和田正純 木村勝紀	木村勝紀 ㊦吉原司郎 ㊦浅井公子	浅井公子
事務局長	笠井政記	千葉良一	志賀健三	吉原司郎
理 事	片野克己 大泉トク 大花幸子 野末富美子 椎橋秀光 頼成敦子 梅本奈美子 松本修 嶽山康則 北村祐子	志賀健三 大熊津夜子 寺村紀美夫 岡本興和 芝崎芳和 滝本和子 頼成敦子 浅井公子 山之内八重子 鯉沼 正弘 高垣和子 市川つわ 渡邊久江	岡本興和 寺村紀美夫 高垣和子 芝崎芳和 市川つわ 渡邊久江 星礼子 坂本春江 森西節子 木下義則 高橋照夫 石橋正彦 大木陸夫 大田京子 山田和嘉子	岡本興和 寺村紀美夫 大木陸夫 高橋照夫 渡邊久江 市川つわ 山田和嘉子 西山哲郎 金田保男 後藤雄二 赤松孝子 家田禮
監 事	龍造寺寛 松岡和正	龍造寺寛 片野克己	龍造寺寛 頼成敦子	龍造寺寛 志賀健三
フォスター・ プラン実行 委員会	五十嵐一成 稲葉恒夫 片岡久雄 坂本春江 藤井輝 星礼子 松岡和正 森西節子	笠井政記 大泉トク 坂本春江 志賀健三 千葉良一 藤井輝 星礼子 森西節子	石橋正彦 坂本春江 星礼子 森西節子	役員会に移行

§ は、本部役員兼務。 ㊦ は、連合会役員兼務。  
出典：役員名簿は「総会議案書」による。

神奈川同窓会  
会員名簿

都道府県 市町村別  
都道府県は英字順

連番	都道府県	市町村	会員名
1	秋田県	大館市	竹澤 隆充
2	福井県	坂井市	山岸 めぐみ
3	北海道	旭川市	山田 勇
4	北海道	岩見沢市	清水 里美
5	兵庫県	朝来市	田路 安子
6	兵庫県	明石市	竹中 司朗
7	茨城県	取手市	大木 勇
8	岩手県	奥州市水沢区	木村 幸子
9	神奈川県	愛甲郡	勝見 貴子
10	神奈川県	綾瀬市	久根口 廣一
11	神奈川県	綾瀬市	笹木 正明
12	神奈川県	綾瀬市	小須田 正孝
13	神奈川県	伊勢原市	高橋 照夫
14	神奈川県	伊勢原市	高橋 静夫
15	神奈川県	伊勢原市	細川 博
16	神奈川県	伊勢原市	松本 テイ子
17	神奈川県	伊勢原市	須田 耕治
18	神奈川県	伊勢原市	大塚 秀幸
19	神奈川県	横須賀市	塩沢 香代子
20	神奈川県	横須賀市	横溝 清子
21	神奈川県	横須賀市	横浜 和也
22	神奈川県	横須賀市	加藤 佐榮子
23	神奈川県	横須賀市	吉田 良子
24	神奈川県	横須賀市	後藤 雄二
25	神奈川県	横須賀市	好見 さち代
26	神奈川県	横須賀市	高田 みつ子
27	神奈川県	横須賀市	坂本 繁夫
28	神奈川県	横須賀市	寺村 紀美夫
29	神奈川県	横須賀市	寺島 とし子
30	神奈川県	横須賀市	治郎丸 良英
31	神奈川県	横須賀市	漆原 友里
32	神奈川県	横須賀市	城戸 孝子
33	神奈川県	横須賀市	清水 英行
34	神奈川県	横須賀市	西村 愛至
35	神奈川県	横須賀市	西野 敏男
36	神奈川県	横須賀市	石渡 弘
37	神奈川県	横須賀市	泉水 憲一
38	神奈川県	横須賀市	大河内 美智子
39	神奈川県	横須賀市	大花 幸子
40	神奈川県	横須賀市	大泉 トク
41	神奈川県	横須賀市	池谷 頼子
42	神奈川県	横須賀市	椎名 一美
43	神奈川県	横須賀市	田澤 誠一
44	神奈川県	横須賀市	田邊 良春
45	神奈川県	横須賀市	萩野 栄子
46	神奈川県	横須賀市	尾澤 昌子
47	神奈川県	横須賀市	武井 宏
48	神奈川県	横須賀市	平林 幸子
49	神奈川県	横須賀市	木村 吉雄

連番	都道府県	市町村	会員名
50	神奈川県	横須賀市	木内 勝
51	神奈川県	横須賀市	鈴木 抄子
52	神奈川県	横須賀市	圓山 佳子
53	神奈川県	横須賀市	宮崎 博之
54	神奈川県	横浜市旭区	安喰 馨
55	神奈川県	横浜市旭区	岡本 興和
56	神奈川県	横浜市旭区	加藤 あいし
57	神奈川県	横浜市旭区	久保 弘子
58	神奈川県	横浜市旭区	後藤 初江
59	神奈川県	横浜市旭区	今井 都
60	神奈川県	横浜市旭区	山田 和嘉子
61	神奈川県	横浜市旭区	松島 一
62	神奈川県	横浜市旭区	森西 節子
63	神奈川県	横浜市旭区	森脇 弘
64	神奈川県	横浜市旭区	斉藤 洋子
65	神奈川県	横浜市旭区	石崎 芳子
66	神奈川県	横浜市旭区	村市 美代子
67	神奈川県	横浜市旭区	竹村 和巳
68	神奈川県	横浜市旭区	長屋 比佐子
69	神奈川県	横浜市旭区	長尾 壮七
70	神奈川県	横浜市旭区	福島 三郎
71	神奈川県	横浜市旭区	別所 敏明
72	神奈川県	横浜市旭区	野坂 寿子
73	神奈川県	横浜市旭区	石川 養雄
74	神奈川県	横浜市磯子区	伊藤 訓
75	神奈川県	横浜市磯子区	丸山 澄子
76	神奈川県	横浜市磯子区	吉田 昭二
77	神奈川県	横浜市磯子区	荒井 孝子
78	神奈川県	横浜市磯子区	森田 千代子
79	神奈川県	横浜市磯子区	深谷 八十八子
80	神奈川県	横浜市磯子区	瀬戸口 勇
81	神奈川県	横浜市磯子区	西川 貴美子
82	神奈川県	横浜市磯子区	土井 孝文
83	神奈川県	横浜市磯子区	梅原 博
84	神奈川県	横浜市磯子区	姫田 忠明
85	神奈川県	横浜市磯子区	武枝 早苗
86	神奈川県	横浜市磯子区	平島 力
87	神奈川県	横浜市磯子区	野須 潔
88	神奈川県	横浜市磯子区	龍造寺 寛
89	神奈川県	横浜市栄区	奥村 耕二
90	神奈川県	横浜市栄区	角田 義久
91	神奈川県	横浜市栄区	高橋 猛
92	神奈川県	横浜市栄区	山田 修市
93	神奈川県	横浜市栄区	宗行 紀子
94	神奈川県	横浜市栄区	小川 副代
95	神奈川県	横浜市栄区	森 柳子
96	神奈川県	横浜市栄区	川畑 叡子
97	神奈川県	横浜市栄区	大地 實
98	神奈川県	横浜市栄区	大日方 裕子



神奈川県同窓会  
会員名簿

都道府県 市町村別  
都道府県は英字順

連番	都道府県	市町村	会員名
99	神奈川県	横浜市栄区	中島 雅夫
100	神奈川県	横浜市栄区	長谷川 潔
101	神奈川県	横浜市栄区	百武 紀子
102	神奈川県	横浜市栄区	服部 聖子
103	神奈川県	横浜市栄区	北村 節子
104	神奈川県	横浜市金沢区	花方 由美子
105	神奈川県	横浜市金沢区	金子 泉
106	神奈川県	横浜市金沢区	桑島 久乃
107	神奈川県	横浜市金沢区	古内 都
108	神奈川県	横浜市金沢区	高梨 幸子
109	神奈川県	横浜市金沢区	佐藤 邦雄
110	神奈川県	横浜市金沢区	森川 淳子
111	神奈川県	横浜市金沢区	西浦 久晏
112	神奈川県	横浜市金沢区	大田 京子
113	神奈川県	横浜市金沢区	谷口 晴江
114	神奈川県	横浜市金沢区	田島 紀美子
115	神奈川県	横浜市金沢区	南 菊一
116	神奈川県	横浜市金沢区	八ッ橋 のぞみ
117	神奈川県	横浜市金沢区	服部 秀子
118	神奈川県	横浜市金沢区	平峰 博文
119	神奈川県	横浜市金沢区	俣野 弘子
120	神奈川県	横浜市金沢区	木下 城力
121	神奈川県	横浜市金沢区	柳澤 明男
122	神奈川県	横浜市金沢区	嶺田 勝典
123	神奈川県	横浜市戸塚区	間庭 正子
124	神奈川県	横浜市戸塚区	岩間 吉男
125	神奈川県	横浜市戸塚区	近藤 倫生
126	神奈川県	横浜市戸塚区	桑島 恵子
127	神奈川県	横浜市戸塚区	桑島 力
128	神奈川県	横浜市戸塚区	迎町 卓司
129	神奈川県	横浜市戸塚区	今井 慶子
130	神奈川県	横浜市戸塚区	佐々木 恭夫
131	神奈川県	横浜市戸塚区	佐藤 英夫
132	神奈川県	横浜市戸塚区	山中 角二
133	神奈川県	横浜市戸塚区	秋田 栄子
134	神奈川県	横浜市戸塚区	小田 妙子
135	神奈川県	横浜市戸塚区	小野寺 浩子
136	神奈川県	横浜市戸塚区	松原 泰子
137	神奈川県	横浜市戸塚区	松本 道男
138	神奈川県	横浜市戸塚区	神宮 滋
139	神奈川県	横浜市戸塚区	杉本 まゆみ
140	神奈川県	横浜市戸塚区	瀬戸 千衣子
141	神奈川県	横浜市戸塚区	石黒 千津子
142	神奈川県	横浜市戸塚区	大西 良
143	神奈川県	横浜市戸塚区	大島 キヨ子
144	神奈川県	横浜市戸塚区	大木 陸夫
145	神奈川県	横浜市戸塚区	池田 美智子
146	神奈川県	横浜市戸塚区	中村 健太郎
147	神奈川県	横浜市戸塚区	東 寿朗

連番	都道府県	市町村	会員名
148	神奈川県	横浜市戸塚区	内波 隆
149	神奈川県	横浜市戸塚区	白石 照子
150	神奈川県	横浜市戸塚区	平野 靖
151	神奈川県	横浜市戸塚区	北谷 博
152	神奈川県	横浜市戸塚区	野崎 修一
153	神奈川県	横浜市戸塚区	鈴木 鉦三郎
154	神奈川県	横浜市戸塚区	齋藤 ツギ子
155	神奈川県	横浜市戸塚区	齋藤 操
156	神奈川県	横浜市港南区	伊東 廣明
157	神奈川県	横浜市港南区	伊藤 紀子
158	神奈川県	横浜市港南区	永倉 稔
159	神奈川県	横浜市港南区	押山 睦生
160	神奈川県	横浜市港南区	岡村 光夫
161	神奈川県	横浜市港南区	花田 泰子
162	神奈川県	横浜市港南区	丸茂 敦
163	神奈川県	横浜市港南区	五十嵐 一成
164	神奈川県	横浜市港南区	五十嵐 恵美子
165	神奈川県	横浜市港南区	荒井 薫
166	神奈川県	横浜市港南区	佐藤 正幸
167	神奈川県	横浜市港南区	佐藤 恵子
168	神奈川県	横浜市港南区	佐藤 敬
169	神奈川県	横浜市港南区	笹路 康子
170	神奈川県	横浜市港南区	三浦 佳子
171	神奈川県	横浜市港南区	山之内 八重子
172	神奈川県	横浜市港南区	小山 紀巳子
173	神奈川県	横浜市港南区	小泉 暁美
174	神奈川県	横浜市港南区	小野寺 愛子
175	神奈川県	横浜市港南区	松丸 節子
176	神奈川県	横浜市港南区	松倉 信一
177	神奈川県	横浜市港南区	星 礼子
178	神奈川県	横浜市港南区	清水 貴之
179	神奈川県	横浜市港南区	石井 次子
180	神奈川県	横浜市港南区	石島 茂美
181	神奈川県	横浜市港南区	大垣 昌枝
182	神奈川県	横浜市港南区	大塚 徳江
183	神奈川県	横浜市港南区	谷合 初恵
184	神奈川県	横浜市港南区	佃 幸子
185	神奈川県	横浜市港南区	鶴井 恵美子
186	神奈川県	横浜市港南区	渡辺 和子
187	神奈川県	横浜市港南区	畠中 信子
188	神奈川県	横浜市港北区	伊藤 博信
189	神奈川県	横浜市港北区	越智 禮子
190	神奈川県	横浜市港北区	松田 義美
191	神奈川県	横浜市港北区	須藤 豊子
192	神奈川県	横浜市港北区	大塚 品子
193	神奈川県	横浜市港北区	那須 美津子
194	神奈川県	横浜市港北区	飯豊 祥子
195	神奈川県	横浜市港北区	服部 光子
196	神奈川県	横浜市神奈川区	加藤 由美子

神奈川同窓会  
会員名簿

都道府県 市町村別  
都道府県は英字順

連番	都道府県	市町村	会員名
197	神奈川県	横浜市神奈川区	荻込 ゆり
198	神奈川県	横浜市神奈川区	三石 健司
199	神奈川県	横浜市神奈川区	寺尾 陽子
200	神奈川県	横浜市神奈川区	篠田 哲
201	神奈川県	横浜市神奈川区	小笠原 はるみ
202	神奈川県	横浜市神奈川区	千葉 良一
203	神奈川県	横浜市神奈川区	大田 久美
204	神奈川県	横浜市神奈川区	中山 致
205	神奈川県	横浜市神奈川区	中村 芳子
206	神奈川県	横浜市神奈川区	塚田 美知子
207	神奈川県	横浜市神奈川区	田港 位具子
208	神奈川県	横浜市神奈川区	渡邊 久江
209	神奈川県	横浜市神奈川区	八代 敏郎
210	神奈川県	横浜市神奈川区	平井 秀明
211	神奈川県	横浜市神奈川区	片岡 久雄
212	神奈川県	横浜市神奈川区	保坂 運規
213	神奈川県	横浜市神奈川区	保坂 恭子
214	神奈川県	横浜市神奈川区	北郷 孝
215	神奈川県	横浜市神奈川区	北郷 順子
216	神奈川県	横浜市神奈川区	牧 秀子
217	神奈川県	横浜市神奈川区	本多 和男
218	神奈川県	横浜市神奈川区	木下 義則
219	神奈川県	横浜市瀬谷区	兼子 弘司
220	神奈川県	横浜市瀬谷区	志賀 健三
221	神奈川県	横浜市瀬谷区	浅井 公子
222	神奈川県	横浜市瀬谷区	本吉 利長
223	神奈川県	横浜市瀬谷区	鈴木 辰之助
224	神奈川県	横浜市瀬谷区	廣瀬 健一
225	神奈川県	横浜市瀬谷区	廣瀬 阜月
226	神奈川県	横浜市瀬谷区	廣瀬 邦造
227	神奈川県	横浜市西区	金森 一男
228	神奈川県	横浜市西区	山田 昌司
229	神奈川県	横浜市西区	本吉 玉枝
230	神奈川県	横浜市西区	有川 紀巳子
231	神奈川県	横浜市青葉区	外崎 厚
232	神奈川県	横浜市青葉区	寺東 正子
233	神奈川県	横浜市青葉区	杉山 元一
234	神奈川県	横浜市青葉区	品田 庚和
235	神奈川県	横浜市青葉区	福田 茂子
236	神奈川県	横浜市泉区	井上 庸子
237	神奈川県	横浜市泉区	永井 藤樹
238	神奈川県	横浜市泉区	吉池 孝弘
239	神奈川県	横浜市泉区	今泉 俊彦
240	神奈川県	横浜市泉区	坂吉 美代
241	神奈川県	横浜市泉区	山田 昌好
242	神奈川県	横浜市泉区	柴田 良江
243	神奈川県	横浜市泉区	杉本 志津子
244	神奈川県	横浜市泉区	川崎 正
245	神奈川県	横浜市泉区	大島 富夫

連番	都道府県	市町村	会員名
246	神奈川県	横浜市泉区	谷口 信子
247	神奈川県	横浜市泉区	竹之下 和雄
248	神奈川県	横浜市泉区	長島 千恵子
249	神奈川県	横浜市泉区	田中 恵子
250	神奈川県	横浜市泉区	渡辺 新一
251	神奈川県	横浜市泉区	福田 繁行
252	神奈川県	横浜市泉区	木村 勝紀
253	神奈川県	横浜市中区	越川 敏子
254	神奈川県	横浜市中区	岡本 マキエ
255	神奈川県	横浜市中区	加藤 登
256	神奈川県	横浜市中区	笠井 政記
257	神奈川県	横浜市中区	吉本 裕子
258	神奈川県	横浜市中区	金子 和子
259	神奈川県	横浜市中区	山内 千賀子
260	神奈川県	横浜市中区	上原 哲雄
261	神奈川県	横浜市中区	星名 武志
262	神奈川県	横浜市中区	鈴木 美佐子
263	神奈川県	横浜市鶴見区	伊従 祐一
264	神奈川県	横浜市鶴見区	伊藤 穂津美
265	神奈川県	横浜市鶴見区	吉川 正明
266	神奈川県	横浜市鶴見区	今泉 徳子
267	神奈川県	横浜市鶴見区	佐々木 幹夫
268	神奈川県	横浜市鶴見区	石井 千代子
269	神奈川県	横浜市鶴見区	川端 洋子
270	神奈川県	横浜市鶴見区	大和田 義明
271	神奈川県	横浜市鶴見区	中川 靖仁
272	神奈川県	横浜市鶴見区	富岡 直子
273	神奈川県	横浜市鶴見区	服部 昌幸
274	神奈川県	横浜市鶴見区	麻生 淑恵
275	神奈川県	横浜市鶴見区	落合 農美
276	神奈川県	横浜市鶴見区	國峯 眞江
277	神奈川県	横浜市都筑区	永吉 弘一
278	神奈川県	横浜市都筑区	岸本 文子
279	神奈川県	横浜市都筑区	斎藤 悟
280	神奈川県	横浜市都筑区	小田倉 由美子
281	神奈川県	横浜市都筑区	小林 朋子
282	神奈川県	横浜市都筑区	青木 利澄
283	神奈川県	横浜市都筑区	東口 半七
284	神奈川県	横浜市都筑区	里見 絢子
285	神奈川県	横浜市南区	伊東 明夫
286	神奈川県	横浜市南区	羽深 大三
287	神奈川県	横浜市南区	羽生 修二
288	神奈川県	横浜市南区	永江 紀恵
289	神奈川県	横浜市南区	加藤 久雄
290	神奈川県	横浜市南区	吉原 司郎
291	神奈川県	横浜市南区	吉田 啓子
292	神奈川県	横浜市南区	原 淳一
293	神奈川県	横浜市南区	古本 教子
294	神奈川県	横浜市南区	才木 義夫

神奈川同窓会  
会員名簿

都道府県 市町村別  
都道府県は英字順

連番	都道府県	市町村	会員名
295	神奈川県	横浜市南区	秋元 稔子
296	神奈川県	横浜市南区	将邑 妙子
297	神奈川県	横浜市南区	小山 佐枝子
298	神奈川県	横浜市南区	小山 廣行
299	神奈川県	横浜市南区	千葉 深雪
300	神奈川県	横浜市南区	前迫 勇毅
301	神奈川県	横浜市南区	倉田 寿代子
302	神奈川県	横浜市南区	大津 幸雄
303	神奈川県	横浜市南区	池田 信夫
304	神奈川県	横浜市南区	東 絹子
305	神奈川県	横浜市南区	浜 都記子
306	神奈川県	横浜市南区	北原 靖子
307	神奈川県	横浜市南区	末永 光明
308	神奈川県	横浜市南区	鈴木 照子
309	神奈川県	横浜市南区	廣田 怜子
310	神奈川県	横浜市南区	齋藤 隆
311	神奈川県	横浜市保土ヶ谷区	羽鳥 紀子
312	神奈川県	横浜市保土ヶ谷区	岡田 明
313	神奈川県	横浜市保土ヶ谷区	金田 保男
314	神奈川県	横浜市保土ヶ谷区	古川 奈穂子
315	神奈川県	横浜市保土ヶ谷区	佐桑 慎二
316	神奈川県	横浜市保土ヶ谷区	小田 博
317	神奈川県	横浜市保土ヶ谷区	小林 隆
318	神奈川県	横浜市保土ヶ谷区	小澤 節子
319	神奈川県	横浜市保土ヶ谷区	星 與資子
320	神奈川県	横浜市保土ヶ谷区	大熊 津夜子
321	神奈川県	横浜市保土ヶ谷区	馬場 賢二
322	神奈川県	横浜市保土ヶ谷区	留分 優
323	神奈川県	横浜市緑区	永田 嘉己
324	神奈川県	横浜市緑区	遠山 京子
325	神奈川県	横浜市緑区	遠山 勝人
326	神奈川県	横浜市緑区	鯨井 恵美子
327	神奈川県	横浜市緑区	高橋 知也
328	神奈川県	横浜市緑区	今井 紘子
329	神奈川県	横浜市緑区	真田 義夫
330	神奈川県	横浜市緑区	池平 功
331	神奈川県	海老名市	佐藤 史子
332	神奈川県	海老名市	柴野 勝子
333	神奈川県	海老名市	新倉 公子
334	神奈川県	海老名市	杉山 秀雄
335	神奈川県	海老名市	石川 武司
336	神奈川県	海老名市	村上 泰彦
337	神奈川県	海老名市	中上 とみ子
338	神奈川県	海老名市	奴間 政代
339	神奈川県	海老名市	柏倉 達郎
340	神奈川県	海老名市	葉梨 美子
341	神奈川県	鎌倉市	芦田 澄枝
342	神奈川県	鎌倉市	伊藤 泰史
343	神奈川県	鎌倉市	伊豆野 忠雄

連番	都道府県	市町村	会員名
344	神奈川県	鎌倉市	園田 節子
345	神奈川県	鎌倉市	宮本 耕一
346	神奈川県	鎌倉市	桑 百合子
347	神奈川県	鎌倉市	栗田 裕子
348	神奈川県	鎌倉市	坂本 春江
349	神奈川県	鎌倉市	出口 仁美
350	神奈川県	鎌倉市	小柴 裕子
351	神奈川県	鎌倉市	小林 弘安
352	神奈川県	鎌倉市	松本 新二
353	神奈川県	鎌倉市	仁田 弘子
354	神奈川県	鎌倉市	渡辺 敏子
355	神奈川県	鎌倉市	東 嘉則
356	神奈川県	鎌倉市	藤田 茂光
357	神奈川県	鎌倉市	梅沢 範子
358	神奈川県	鎌倉市	白井 京
359	神奈川県	鎌倉市	片山 洋子
360	神奈川県	鎌倉市	林 和
361	神奈川県	鎌倉市	和田 洋子
362	神奈川県	鎌倉市	廣瀬 博雄
363	神奈川県	茅ヶ崎市	奥隅 廣介
364	神奈川県	茅ヶ崎市	吉村 恵美子
365	神奈川県	茅ヶ崎市	熊沢 利夫
366	神奈川県	茅ヶ崎市	五十嵐 啓子
367	神奈川県	茅ヶ崎市	小林 俊夫
368	神奈川県	茅ヶ崎市	新田 祥子
369	神奈川県	茅ヶ崎市	川島 勝美
370	神奈川県	茅ヶ崎市	代居 清彦
371	神奈川県	茅ヶ崎市	南 吉夫
372	神奈川県	茅ヶ崎市	楳田 恵造
373	神奈川県	茅ヶ崎市	竹内 喜紀
374	神奈川県	茅ヶ崎市	中嶋 博子
375	神奈川県	茅ヶ崎市	藤井 輝
376	神奈川県	茅ヶ崎市	平瀬 源
377	神奈川県	茅ヶ崎市	平田 恵美
378	神奈川県	茅ヶ崎市	眞保 喜代子
379	神奈川県	厚木市	安藤 千晶
380	神奈川県	厚木市	稲村 義雄
381	神奈川県	厚木市	雨宮 智
382	神奈川県	厚木市	櫛田 政五郎
383	神奈川県	厚木市	山崎 美和
384	神奈川県	厚木市	川島 英子
385	神奈川県	厚木市	丹澤 洋子
386	神奈川県	厚木市	畑 武子
387	神奈川県	高座郡	佐々木 邦
388	神奈川県	高座郡	森本 功
389	神奈川県	高座郡	相原 實
390	神奈川県	座間市	坂元 了子
391	神奈川県	座間市	森脇 早代子
392	神奈川県	座間市	相原 恭子

神奈川同窓会  
会員名簿

都道府県 市町村別  
都道府県は英字順

連番	都道府県	市町村	会員名
393	神奈川県	座間市	猪野 良男
394	神奈川県	座間市	藪 多一郎
395	神奈川県	三浦郡葉山町	稲葉 恒夫
396	神奈川県	三浦郡葉山町	曲田 記子
397	神奈川県	三浦郡葉山町	古野 高根
398	神奈川県	三浦市	山田 文紀
399	神奈川県	三浦市	船澤 喜久子
400	神奈川県	三浦市	服部 安恵
401	神奈川県	小田原市	奥津 尚男
402	神奈川県	小田原市	宮崎 典子
403	神奈川県	小田原市	高橋 収
404	神奈川県	小田原市	杉崎 美幸
405	神奈川県	秦野市	吉原 揚子
406	神奈川県	秦野市	佐々治 京子
407	神奈川県	秦野市	杉崎 孝
408	神奈川県	秦野市	曾根崎 純尚
409	神奈川県	秦野市	南 恭子
410	神奈川県	秦野市	二ノ宮 一郎
411	神奈川県	逗子市	手塚 笑子
412	神奈川県	逗子市	秋山 寿子
413	神奈川県	逗子市	小関 トシ
414	神奈川県	逗子市	杉本 日出子
415	神奈川県	逗子市	西山 哲郎
416	神奈川県	逗子市	相原 晶子
417	神奈川県	逗子市	和田 正純
418	神奈川県	川崎市宮前区	出光 直樹
419	神奈川県	川崎市宮前区	南 マサ子
420	神奈川県	川崎市幸区	垣谷 江里子
421	神奈川県	川崎市幸区	小中 雅水
422	神奈川県	川崎市幸区	千田 久治
423	神奈川県	川崎市幸区	尾崎 優子
424	神奈川県	川崎市幸区	頼成 敦子
425	神奈川県	川崎市高津区	鳥海 邦博
426	神奈川県	川崎市高津区	齋藤 眞佐乃
427	神奈川県	川崎市川崎区	伊丹 優
428	神奈川県	川崎市川崎区	稲葉 光子
429	神奈川県	川崎市川崎区	笠原 嘉子
430	神奈川県	川崎市川崎区	宮川 恵子
431	神奈川県	川崎市川崎区	山田 美和子
432	神奈川県	川崎市川崎区	赤松 孝子
433	神奈川県	川崎市川崎区	相沢 清子
434	神奈川県	川崎市川崎区	藤田 重則
435	神奈川県	川崎市川崎区	福井 香織
436	神奈川県	川崎市川崎区	木村 和輝
437	神奈川県	相模原市中央区	吉田 薫
438	神奈川県	相模原市中央区	佐藤 芙美子
439	神奈川県	相模原市中央区	佐藤 京子
440	神奈川県	相模原市南区	伊達 和子
441	神奈川県	相模原市南区	稲玉 実津子

連番	都道府県	市町村	会員名
442	神奈川県	相模原市南区	吉岡 敏子
443	神奈川県	相模原市南区	市川 つわ
444	神奈川県	相模原市南区	小川 みのり
445	神奈川県	相模原市南区	小林 公子
446	神奈川県	相模原市南区	上野 道子
447	神奈川県	相模原市南区	菅野 美江子
448	神奈川県	相模原市南区	大野 秀浩
449	神奈川県	相模原市南区	中尾 弘子
450	神奈川県	相模原市南区	福島 岱
451	神奈川県	相模原市南区	鈴木 ヒサ子
452	神奈川県	相模原市南区	櫻井 始
453	神奈川県	相模原市緑区	水谷 良子
454	神奈川県	相模原市緑区	大社 憲生
455	神奈川県	相模原市緑区	大成 陽子
456	神奈川県	相模原市緑区	中坪 健
457	神奈川県	相模原市緑区	長谷川 千代美
458	神奈川県	足柄上郡	土屋 悦子
459	神奈川県	大和市	宮下 信
460	神奈川県	大和市	高橋 玲子
461	神奈川県	大和市	市村 恭子
462	神奈川県	大和市	式田 重雄
463	神奈川県	大和市	緒方 啓之
464	神奈川県	大和市	上代 益栄
465	神奈川県	大和市	石橋 正彦
466	神奈川県	大和市	曾我 博光
467	神奈川県	大和市	中島 巖
468	神奈川県	大和市	藤井 孝子
469	神奈川県	大和市	白垣 成
470	神奈川県	大和市	保田 昌男
471	神奈川県	大和市	万場 由美子
472	神奈川県	大和市	野沢 稻義
473	神奈川県	中郡	植地 勢作
474	神奈川県	中郡	中村 陽一
475	神奈川県	津久井郡	三浦 とみ子
476	神奈川県	藤沢市	井澤 祐子
477	神奈川県	藤沢市	奥 泰子
478	神奈川県	藤沢市	横山 直樹
479	神奈川県	藤沢市	家田 禮
480	神奈川県	藤沢市	丸山 鈴子
481	神奈川県	藤沢市	岩崎 みき子
482	神奈川県	藤沢市	亀田 宣子
483	神奈川県	藤沢市	吉原 美知子
484	神奈川県	藤沢市	橘川 昌弘
485	神奈川県	藤沢市	宮坂 正子
486	神奈川県	藤沢市	新倉 小夜子
487	神奈川県	藤沢市	森木 やす江
488	神奈川県	藤沢市	諏訪間 晋
489	神奈川県	藤沢市	水谷 亨
490	神奈川県	藤沢市	数田 真澄

神奈川同窓会  
会員名簿

都道府県 市町村別  
都道府県は英字順

連番	都道府県	市町村	会員名
491	神奈川県	藤沢市	西川 隆
492	神奈川県	藤沢市	西尾 まつ枝
493	神奈川県	藤沢市	青谷 逸子
494	神奈川県	藤沢市	川田 進
495	神奈川県	藤沢市	丹羽 照子
496	神奈川県	藤沢市	中村 光邦
497	神奈川県	藤沢市	田端 和子
498	神奈川県	藤沢市	田中 知英子
499	神奈川県	藤沢市	入口 勝代
500	神奈川県	藤沢市	白岩 瑠美子
501	神奈川県	藤沢市	平井 尊
502	神奈川県	藤沢市	牧原 周子
503	神奈川県	藤沢市	淵上 正子
504	神奈川県	平塚市	井澤 英一郎
505	神奈川県	平塚市	高垣 和子
506	神奈川県	平塚市	笹林 康子
507	神奈川県	平塚市	小清水 四郎
508	神奈川県	平塚市	染宮 栄子
509	神奈川県	平塚市	池永 康子
510	神奈川県	平塚市	堀田 まゆみ
511	神奈川県	平塚市	林 楨枝
512	京都府	京都市東山区	筒井 文子
513	長野県	岡谷市	岡本 真知子
514	長野県	諏訪市	林 容子
515	長崎県	大村市	児玉 昭子
516	長野県	北佐久郡	福本 修
517	新潟県	柏崎市	山下部 晃一
518	大阪府	枚方市	中尾 憲子
519	埼玉県	鴻巣市	森 孝子
520	埼玉県	坂戸市	稲尾 公子
521	埼玉県	児玉郡	松永 泰輝
522	埼玉県	川越市	廣瀬 直子
523	埼玉県	草加市	國岡 紀子
524	滋賀県	大津市	小山 義広
525	島根県	隠岐郡	日下 祐志
526	静岡県	榛原郡牧之原市	長谷川 哲司
527	静岡県	浜北市	中村 忠司
528	静岡県	富士宮市	小川 和美
529	静岡県	富士市	佐藤 紀子
530	千葉県	南房総市	坂本 由美
531	千葉県	八街市	佐々木 良作
532	東京都	大田区	押井 幸治
533	東京都	大田区	金子 總子
534	東京都	大田区	犬伏 秀一
535	東京都	大田区	若林 孝次
536	東京都	大田区	大塚 陽子
537	東京都	中央区	梶川 美智子

連番	都道府県	市町村	会員名
538	東京都	町田市	鯉沼 正弘
539	東京都	町田市	佐々木 美穂
540	東京都	町田市	三栖 香織
541	東京都	町田市	深澤 忠士
542	東京都	町田市	中川 英子
543	東京都	町田市	奈良場 修子
544	東京都	町田市	満田 みどり
545	東京都	品川区	田中 正博
546	栃木県	小山市	篠原 佐千江
547	富山県	富山市	中川 泰
548	山口県	宇部市	滝本 和子

平成22年8月・9月・10月の入会者

連番	都道府県	市町村	会員名
549	神奈川県	横須賀市	若命三千一
550	神奈川県	横浜市港南区	高橋英一
551	神奈川県	横浜市神奈川区	大熊恵子
552	神奈川県	横浜市瀬谷区	白土征男
553	神奈川県	横浜市鶴見区	木庭広恵
554	神奈川県	横浜市保土ヶ谷区	高尾裕美
555	神奈川県	横浜市保土ヶ谷区	田中理紗
556	神奈川県	茅ヶ崎市	石黒直美
557	神奈川県	茅ヶ崎市	大木賢三
558	神奈川県	足柄上郡	鳥海互敏
559	神奈川県	中郡	松本 滋
560	神奈川県	逗子市	可知正邦
561	神奈川県	逗子市	山本江里子
562	神奈川県	平塚市	清水茂樹
563	東京都	町田市	宗形成郎

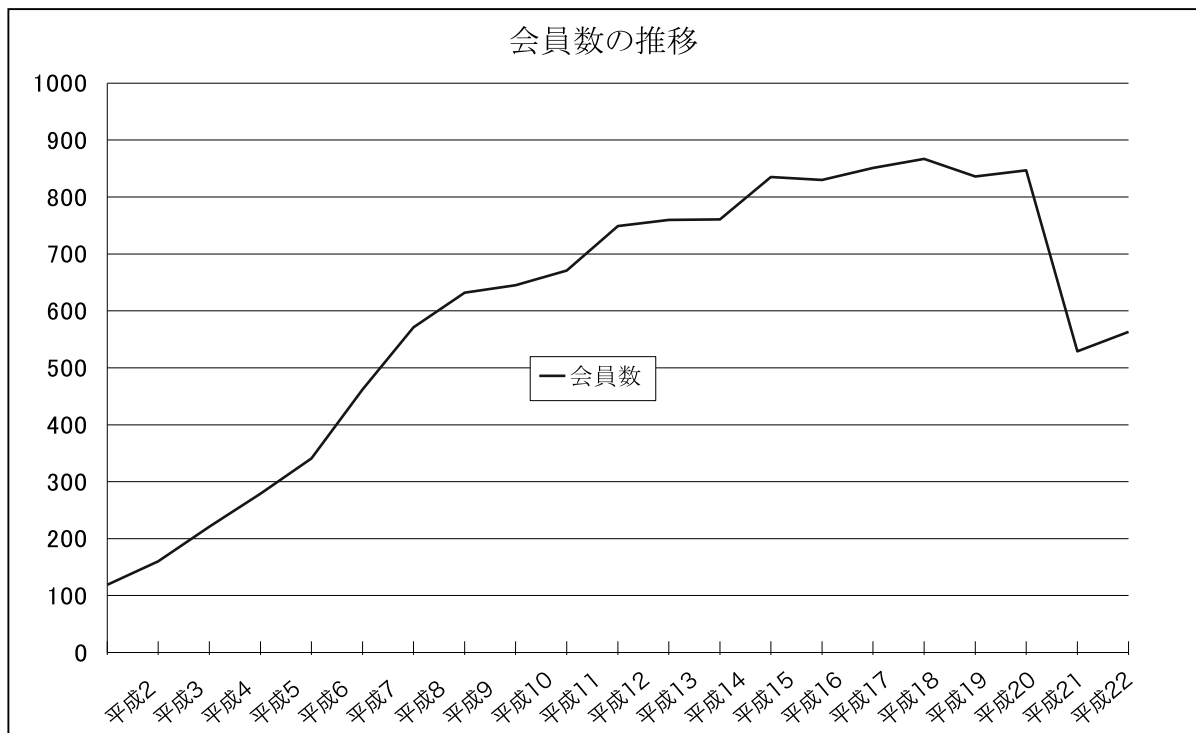
	都道府県	合計
都 道 府 県 別 集 計 表	秋田県	1
	福井県	1
	北海道	2
	兵庫県	2
	茨城県	1
	岩手県	1
	神奈川県	517
	京都府	1
	長野県	3
	長崎県	1
	新潟県	1
	大阪府	1
	埼玉県	5
	滋賀県	1
	島根県	1
	静岡県	4
千葉県	2	
東京都	15	
栃木県	1	
富山県	1	
山口県	1	
総計	563	



### 神奈川同窓会会員数の推移

西暦	和暦	会員数
1989	平成 元	
1990	平成 2	119
1991	平成 3	160
1992	平成 4	221
1993	平成 5	279
1994	平成 6	341
1995	平成 7	462
1996	平成 8	571
1997	平成 9	632
1998	平成 10	645
1999	平成 11	671
2000	平成 12	749

西暦	和暦	会員数
2001	平成 13	760
2002	平成 14	761
2003	平成 15	835
2004	平成 16	830
2005	平成 17	851
2006	平成 18	867
2007	平成 19	836
2008	平成 20	847
2009	平成 21	529
2010	平成 22	563



21年度の会員数の減少は会則改訂により会費2年以上の滞納者は自然退会とした為による。

号数	タイトル	投稿者	
創刊号 1990/12/19	会報創刊によせて 支部会報創刊の喜び 学ぶ喜びと学習力を結集して 支部創立総会開かれる 全員で盛り上げた同窓会設立祝賀会 会報にネーミングを！	神奈川学習センター所長 放送大学同窓会会長 神奈川学習センター支部会長  企画委員長	浜口 充子 藤田 茂光 別所 敏明 総務部 稲葉 恒夫 編集部
2号 1991/7/30	第二回支部総会開かれる タイムリーだった講演会 会員通信 ビールの製造工程見学会 大学周辺探訪 第一回弘明寺界限 会報の名称 「波濤」に決まる	企画委員長  1991/8/18 同窓会理事	総務部 小川 みのり 平田 恵美 企画部 須藤 赳夫 編集部
3号 1992/2/10	ニューイヤーパーティ開催 ビール工場を見学して 国際貢献に係る同窓会活動について 日日是好日 大学周辺探訪 会員通信	支部副部長 企画委員長 フォスター・プラン実行委員会  同窓会理事	加藤 あいし 稲葉 恒夫 五十嵐 一成ほか 藤田 茂光 須藤 威夫 伊故海 秀之
4号 1992/9/9	会長就任によせて 良く理解援助活動の仕組み 放送大学同窓会にひとこと 放送大学を卒業して 「酒」夢譚	支部長	加藤 あいし 稲葉 恒夫 S 生 S・K 安喰 馨
5号 1993/2/26	福祉は人間そのものを全体的に見据えたもの 福祉と行政 卒業後の活動について 社会福祉に頑張っています 専攻特論のテーマが導いた就職 十三人火曜日 ピラーちゃんへの手紙 おばさん キットピークへ行く (その1)	企画委員会 相模福祉村理事長	小川 みのり 赤間 一之 大垣 昌枝 細川 博 市村 恭子 小川 みのり 片山 洋子 小山 佐枝子
6号 1993/8/28	思考は柔軟ですか (講演会に出席して) おばさん キットピークへ行く (その2)		Q 生 小山 佐枝子
7号 1994/3/9	いるかの神様 ある大学院生活の一日 フォスター・プランの活動報告 おばさん キットピークへ行く (その3) 身体障害学生の支援について	お茶の水女子大学 修士課程 フォスター・プラン実行委員会  会長	Q 生 佐藤 美津留  小山 佐枝子 加藤 あいし
8号 1994/8/25	会長就任に際し より魅力ある同窓会に 中国における「公平」について 「フォスター・プラン」の発展を願って おばさん キットピークへ行く (その4)		稲葉 恒夫 小川 みのり 村上 美砂子 小山 佐枝子
9号 1995/2/25	同窓会設立5周年に向けて 「フォスター・チャイルドに愛の手を！」 同窓会に入会して 頑張って“卒業生”と言うのも気がひけるが.... おばさん キットピークへ行く (その5 最終回)	会長 フォスター・プラン実行委員会	稲葉 恒夫 加藤 あいし 平峰 博文 三浦 虎彦 小山 佐枝子
10号 1995/8/28	財政基盤を確実に 支部年会費納入で 健康診断の数値について知識 講演会に出席して 初めての同窓会 「金沢「文庫名宝コレクション」見学に参加して 結構ハードでしたが...	会長 SRL 下山 友一先生	稲葉 恒夫 抄録 伊東 廣明 大島 キヨコ 石見 八郎 田沢 誠一

号数	タイトル	投稿者	
	<p>社会福祉士に合格して憶う 人生これから ” 夏太り ” フォスター・プラン便り</p>		<p>細川 博 内田 賢子 押山 陸生 加藤 あいし</p>
<p>11号 1996/2/29</p>	<p>未来を切り開く新しき力に期待して 日本フォスター・プラン協会による講演と勉強会開催 箱根彫刻の森美術館を訪ねて 新山下地域ケアプラザを見学して 「浜口先生を囲み組織について考える会」に参加して 第六回支部連絡協議会報告 放送大学を卒業して 放送大学症候群 ハノイからの手紙 (生活編)</p>	<p>神奈川学習センター支部 講演要旨</p>	<p>稲葉 恒夫 丸山 和子 石崎 芳子 河内 長三 押山 陸生 星 礼子 衛藤 裕美 南 博 出口 仁美</p>
<p>12号 1996/8/31</p>	<p>会長就任にあたって インターネットについて 講演を聴いて 鎌倉散策の記 ビール工場見学記 フォスター・プラン便り</p> <p>退任にあたって</p> <p>新監査役を引き受けて ハノイからの手紙 (教育編)</p>	<p>神奈川学習センター支部会長 早稲田情報経理専門学校講師</p> <p>F・P 実行委員会</p> <p>会長 副会長 事務局長 会計 総務 総務 総務 総務 監事 監事</p>	<p>押山 陸生 五十嵐 一成 衛藤 裕美 おじゃま虫宮子 藤井 輝</p> <p>稲葉 恒夫 龍造寺 寛 五十嵐 一成 坂本 春江 松岡 和正 桑島 久乃 森脇 早代子 南 宏 那須 美津子 林 カヨ 出口 仁美</p>
<p>13号 1997/3/1</p>	<p>過去から未来に フォスター・プラン便り 優しい心で国際協力 講演「自己と出会うまでの長い道」 あるがままの自分で --- 横浜海上防災基地見学会に参加して 鎌倉散策に参加して うえるかむ Together 最後から一番目の思想 北海道地域学習センターに学んで 大学院の生活 ハノイからの手紙 (あれこれ短編)</p>	<p>神奈川支部会長 実行委員会 講師 藤田 芳光</p>	<p>押山 陸生 加藤 あいし 企画委員会 佐藤 芙美子 伊東 広明 中尾 弘子 星 礼子 片野 克己 和田 恭子 吉川 智子 出口 仁美</p>
<p>14号 1997/9/1</p>	<p>就任二年目を迎えて 心のケアについて 講演会を拝聴して 荒崎海岸ハイキングに参加して 同窓生紹介 ハノイからの手紙 (あれこれ編2)</p>	<p>会長 講師</p> <p>エコサイクル家事研究家</p>	<p>押山 陸生 中島 保寿 倉田 寿代子 坂本 春江 島 秀子 出口 仁美</p>
<p>15号 1998/3/1</p>	<p>同窓会連合化の年に 魅力ある同窓会の構築 フォスター・プラン報告 現地から見たフォスター・ペアレント制度</p>	<p>神奈川学習センター支部 会長 副会長</p> <p>講師 伊勢崎 賢治</p>	<p>押山 陸生 藤井 輝 佃 幸子</p>

号数	タイトル	投稿者	
	要旨と感想 鎌倉散策シリーズ 鎌倉散策にて詠む 横浜歴史博物館見学に参加して シベリアに黒い太陽を追って 放送大学ダンスサークル 十年目の卒業 ハノイからの手紙 (最終編)		片山 洋子 平井 尊 南 宏 中山 誠 田澤 誠一 菊島 ユリ子 飯塚 佳子 出口 仁美
16号 1998/9/1	会のさらなる発展に向けて 講演会 楽しみながら英語を学ぶ方法 講演会を拝聴して 神奈川県立生命の星・地球博物館見学 第二回 シベリアに黒い太陽を追って フォスター・プラン活動報告	神奈川学習センター同窓会 会長 講師 放送大学助教授  フォスター・プラン実行委員会	藤井 輝 藤井 洋子 森永 洋子 小山 佐枝子 田澤 誠一 稲葉 恒夫
17号 1999/3/1 <small>創刊号から17号まで会員数の記載はありません</small>	同窓会改編から一年 さらなる展開を！ 連合会だより 鎌倉散策に参加して 見学会の楽しみ 第三回 シベリアに黒い太陽を追って フォスター・プラン報告	神奈川学習センター同窓会 会長  フォスター・プラン実行委員会	藤井 輝 藤井 輝 片岡 久雄 皆川 昭三 田澤 誠一 伊東 広明
18号 1999/9/1 671名	一層の飛躍を期待して 同窓会創立十年目を迎えて 「洋楽移入の入り口・横浜」の講演について ズーラシア見て歩き フォスター・プラン活動報告	神奈川学習センター長 神奈川学習センター同窓会 会長	新飯田 宏 藤井 輝 出口 仁美 久保 洋子 片山 洋子
19号 2000/3/12 725名	2000年のけじめ 連合会だより 久里浜コスモス園及びハーブ園を見学して 泉橋酒造見学記 ソムチャイ (フォスター・チャイルド) 君との感激の対面 響く槌音、増える講義室	神奈川学習センター同窓会 会長  団長 田澤誠一ほか 総務	藤井 輝 藤井 輝 西浦 久晏 佐々木 順子  片野 克己
20号 2000/9/1 744名	新会長に就任して 連合会だより 憧れたアメリカ「(新飯田宏教授の講演会を聞いて)」 同窓会十周年記念行事「鎌倉散策」に参加して スバル望遠鏡見学 フォスター・プラン活動報告	神奈川学習センター同窓会 会長  フォスター・プラン実行委員	伊東 廣明  熊沢 利夫 平井 尊 小山 佐枝子 伊東 廣明
21号 2001/3/1 760名	社会人のための大学フェアに参加して 新しい横浜と古い横浜の発見 オーロラ紀行 時の恩寵 『バベットの晩餐会』を観て 新世紀を迎えて フォスター・プラン活動報告	千葉同窓会  神奈川学習センター同窓会会長 F・P 実行委員会	藤井 輝 渡部 睦子 田澤 誠一 片野 克己 伊東 廣明
22号 2001/9/1 753名	老いて学ばば死して朽ちず 『ゲーデルの業績について』を聴いて 私の「お台場」体験記 南極観測船宗谷の見学について 大学院に教員の資質向上を期待 大学院で学んだこと 大学院で学びたいこと 改革・変革の時代	神奈川学習センター所長 隈部先生の講演会  神奈川学習センター同窓会会長	神代 和俊 筈崎 博之 和合 明 片岡 久雄 加藤 登 古明地 和子 熊沢 利夫 伊東 廣明

号数	タイトル	投稿者	
23 号 2002/3/1 761 名	活力を社会に還元 社会人のための大学フェアに参加して 《秋の江の島散策》に参加して 《波濤の子供も見てきました》 日食とパラサイト・シングルを聴いて 『映画鑑賞とお話し』を楽しんだ！ 映画鑑賞の感想 フォスター・プラン活動報告 同窓会と私	神奈川学習センター同窓会長  F・P 実行委員会 神奈川学習センター同窓会副会長	伊東 廣明 伊東 廣明 荒川 知子 佐々木 恭夫 片野 克己 佐々木 順子 大島 キヨ子  小山 佐枝子
24 号 2002/9/22 813 名	会長就任にあたって 神代所長講演会「身につまされる講演」 「麒麟横浜ビアビレッジ」見学会に参加して 大学院「レポート報告会」の効用 パソコン初心者奮闘記 私の生涯学習について 放送大学大学院修士科目生として フォスター・プラン活動報告	神奈川学習センター同窓会長  助教授  F・P 実行委員会	五十嵐 一成 小山 佐枝子 佐藤 英夫 坂井 素思 越川 敏子 鈴木 信之 大泉 トク
25 号 2003/3/30 835 名	身近な社会貢献への参画について 第一次南極観測隊輸送業務について 体験発表会を聴講して 披露山・浪子不動渚ウォークへ参加して 映画グラディエーターを見て 映画「グラディエーター」に参加して フォスター・プラン活動報告 ボランティア「ある質問から」 〃 「かけ橋」の活動を通して思うこと 〃 「電話相談」というボランティア	神奈川学習センター同窓会長 《体験発表 片岡 久雄氏》 《体験発表 坪井 英子氏》  東京文京 F・P 実行委員会 総務	五十嵐 一成 藤井 輝 皆川 昭三 稲葉 恒夫 原 健次 丸山 くみ子  杉本 志津子 笠井 政記
26 号 2003/9/1 828 名	市民活動の時代 フォスター・プラン活動報告 子供たちの話をどう聞いたらよいか 矢吹教授の講演会を聴いて 「開国の町横須賀をハイキング」に参加して 浦賀ハイキング記 「幕末・横浜での西洋音楽」	神奈川学習センター所長 F・P 実行委員会 矢吹 和美教授講演会 〃  笠原先生の講演会	神代 和俊  金子 和子 竹中 司朗 西野 敏男 伊藤 博信 藤井 輝
27 号 2004/4/1 830 名	活動報告と新たなご提案 義明山満昌寺を拝観して学習したことの記 「三浦一族ゆかりの寺巡り」に参加して 横須賀の歴史を学ぶに参加して 卒業生の研究発表会に参加して 「活きる」の鑑賞を終わって フォスター・プラン活動報告	神奈川学習センター同窓会長  映画感想文 F・P 実行委員会	五十嵐 一成 龍造寺 寛 西野 敏男 南 和子 赤松 孝子 和田 正純
28 号 2004/9/1 835 名	就任の挨拶 佐藤英男先生講演会 講演を聞いて 〃 ロマンあふれる天文学 和田正純氏講演会 僕もスキルアップへ 〃 講演会に参加して 第 18 回フェスタ・ヨコハマ記念講演をきいて 身近な社会貢献への参画について	神奈川学習センター所長  講師 所長 森谷正規氏 社会貢献実行委員会（仮称）	森谷 正規 谷合 初恵 小山 佐枝子 皆川 昭三 杉山 秀雄 竹中 司朗



号数	タイトル	投稿者	
29 号 2005/4/1 851 名	同窓会設立 15 周年記念行事開催の報告 15 周年記念フォーラムを聴講して 「放送大学生の明日を探る」を聞いて 藤田茂光氏講演会「禅と心」聴講 〃 「禅と心」を聞いて 鎌倉散策に参加して 映画鑑賞会&お話し フォスター・プラン活動報告	神奈川同窓会会長  講演 西浦 久晏氏 F・P 実行委員会	五十嵐 一成 伊藤 泰史 佐藤 美津留 亀倉 邦男 倉田 寿代子 塩崎 昌二 頼成 敦子
30 号 2005/9/1 855 名	「自活できる能力を保持するために」講演をきいて 〃 講演会に参加して 「新シルクロード展」見学記 シルクロード展観覧へ参加して 日本フォスター・プラン協会について	放送大学助教授 白井永男先生  F・P 実行委員会	千葉 良一 浅井 公子 木村 勝紀 志賀 健三
31 号 2006/4/1 865 名	江戸の名残り・谷中寺巡り 谷中のお寺は花より団子 映画鑑賞会&お話し 映画鑑賞会に参加して フォスター・プラン活動報告	F・P 実行委員会	木村 勝紀 尾崎 優子 田澤 誠一 志賀 健三
32 号 2006/9/1 867 名	ご挨拶 坂井素思先生講演会に出席して 〃 男の好青年のネット 健康ウォーキングと江ノ電・鎌倉の旅 〃 江ノ電・鎌倉の旅に参加して 日本フォスター・プラン協会について 明るく、楽しい生活を送るようにしよう	神奈川同窓会会長  F・P 実行委員会 神奈川同窓会会長	笠井 政記 志賀 健三 頼成 敦子 鯉沼 正弘 市川 つわ 笠井 政記
33 号 2007/4/1 819 名	日光街道の初宿・千住と芭蕉旅立ちの足跡 〃 〃 足跡をたどる 映画鑑賞会&お話し フォスター・プラン活動報告	F・P 実行委員会	滝本 和子 櫛田 政五郎 志賀 健三
34 号 2007/9/1 837 名	ご挨拶 江戸歴史探訪ウォーキング 〃 濱田先生の講演を聞いて 神奈川同窓会講演を聞いて フォスター・プラン活動報告	神奈川同窓会会長  F・P 実行委員会	笠井 政記 岡本 興和 大木 勇 鯉沼 正弘 山之内八重子
35 号 2008/4/1 850 名	会長の挨拶 真鶴半島の自然と史跡めぐり 映画鑑賞会に参加して 平成 19 年度放送大学学位記授与式 同窓会ホームページ開設までの苦心談 波濤ネットの会の開設 プランのアジア地域での活動	神奈川同窓会会長  F・P 実行委員会	笠井 政記 岡本 興和 志賀 健三 岡本 興和 寺村 紀美夫 岡本 興和
36 号 2008/10/1 839 名	ご挨拶 坂井素思先生の講演 日本人情報の受け入れ 鎌倉歴史散策に参加して 〃 牡丹餅寺から安国論寺へ 海部宣男教授講演会「宇宙と生命」 私が考える少子化対策 私の農業体験記 神奈川同窓会ホームページの話	神奈川同窓会会長	笠井 政記 兼子 弘司 小田 博 岡本 興和 宮崎 博之 皆川 昭三 永井 藤樹 寺村 紀美夫

号数	タイトル	投稿者	
37 号 2009/4/1 529 名	放送大学同窓会連合会長として 20 年度の振り返り 21 年度の展望 浅草で落語を楽しんだ！！ 浅草散策同行記 講演会と映画鑑賞会 150 年前の横浜 ダンスと私 探鳥寸描 フェスタ実行委員会主催「公開講演会」 放送大学同窓会連合会の紹介 同窓会活動への期待 社会貢献活動 フォスター・プランについて 同窓会ホームページに関する報告 波濤ネットの会について 2008 年 10 月入学式・学位記授与式 平成 20 年度放送大学学位記授与式 神奈川同窓会活動より	神奈川同窓会会長 会長代行  同窓会連合会事務局長 神奈川学習センター所長  事務局長	笠井 政記 木村 勝紀 大島 キヨ子 諏訪間 晋 高橋 照夫 木村 勝紀 山田 和嘉子 石橋 正彦 木下 義則 吉原 司郎 濱田 嘉昭 石橋 正彦 寺村 紀美夫 岡本 興和 寺村 紀美夫 岡本 興和 志賀 健三
38 号 2009/10/1 556 名	放送大学神奈川同窓会への期待 ご挨拶 放送大学 20 年の軌跡 地域の小さなボランティア活動 横浜事始より牛鍋を 「新緑の高尾山散策」に参加して 第 23 回フェスタ・ヨコハマ ♪ お抹茶コーナー ♪ ビンゴゲーム大会 フォスター・プラン報告 チャイルド交代 放送大学同窓会連合会のホームページ紹介 総会および講演会をふりかえって 『hatoh-net』のページ 未来を託す	神奈川学習センター所長 神奈川同窓会会長  会長代行	渡邊 慎介 笠井 政記 吉田 昭二 坂本 春江 皆川 昭三 佐藤 恵子 木下 義則 大木 陸夫 志賀 健三 星 礼子 吉原 司郎 志賀 健三 木村 勝紀
39 号 2010/6/1 563 名	会長就任の挨拶 皆様方に感謝！ 私にとって真の卒業は未だ 「河川網をめぐり開港場へ」に参加して 面接授業『出羽路の芭蕉』（その 1） チャイルド訪問の思い出（タイ） 放送大学学位記授与・式祝賀会に出席して 歌舞伎鑑賞に参加して 学問のススメ 「冬の公開講演会」報告 フォスター・プラン講演会から 映画鑑賞会 放送大学同窓会連合会日より 特別講演「なまはげ」の実演と解説	神奈川同窓会会長 前神奈川同窓会会長  「なまはげ伝導士」小野鐵雄氏	木村 勝紀 笠井 政記 姫田 忠明 金田 保男 永井 藤樹 星 礼子 佐栞 慎二 坂本 春江 木下 義則 坂本 春江 高橋 照夫 藤井 輝 吉原 司郎

## 編集後記

平成 22 年 10 月 神奈川同窓会は創立 20 周年を迎えます。  
この 20 年という節目の年にあたり、未来に向けた足がかりとなる創立 20 周年記念事業を計画し、その事業のひとつとして創立 20 周年記念誌『波濤』40 号を発行することとしました。

当該『波濤』には、諸先輩指導の下に継承された成果として顕れている現在の姿、名誉学生（グランドスラム）の声、学生の研究・研修等の寄稿、在学生の活動状況、神奈川学習センターの近況等「神奈川学習センター」全体が生き活きと活躍している姿を発信して行きたいと計画しました。

足跡を辿って見ると諸先輩が築いてきた歴史、連綿として継続してきた「社会貢献活動」等まさに「継続は力なり」を実感し、これからも継続発展させて参ります。

発刊に当たり、渡邊神奈川学習センター所長はじめ諸先生・事務長および職員の方がた、諸先輩ならびに関係者の皆様に執筆をお願いし、多大なご協力を頂き編集委員一同心より感謝申し上げます。

平成 22 年 11 月

金田 保男 記

## 創立 20 周年記念誌『波濤』第 40 号

発行	平成 22 年 11 月吉日	
発行者	放送大学神奈川同窓会	
編集	神奈川同窓会『波濤』編集委員	
編集委員	岡本 興和（委員長）	
	金田 保男（副委員長）	
	木村 勝紀	浅井 公子
	吉原 司郎	寺村 紀美夫
	大木 陸夫	高橋 照夫
	渡邊 久江	市川 つわ
	山田 和嘉子	西山 哲郎
	後藤 雄二	赤松 孝子
	家田 禮	志賀 健三
	龍造寺 寛	
	藤井 輝	笠井 政記

印刷 株式会社 デザイン印刷長島  
電話：045 (252) 2881 FAX：045 (252) 2915  
E-mail：nagashima@dezanaga.com